

平成14年度
登戸地区商業ビジョン基本計画
報告書

平成15年3月

川 崎 市

ごあいさつ

多摩区登戸地区は、南武線と小田急線が交差し、都心に数十分程度で到達でき、かつ緑地も残っている交通利便性の良い住宅地であります。また、大学を始めとする文化施設やばら苑、日本民家園等の観光施設が多く存在する大変魅力がある地域といえます。

しかし、近年、川崎の副都心にも位置づけられているこの地域も、土地区画整理事業の長期化や景気の低迷などによる地元商店街の空洞化等の要因に伴い、地域商業の活力が大きく低下する危機に面しています。

そのため、平成 13 年度に策定した「川崎市地域商業振興ビジョン」を受けて、登戸地区を対象として、商業振興は地域振興であるとの観点から、地域の方と連携した商業の活性化プランづくりをモデル的に実施いたしました。

今回の事業では、地域の方の関心が非常に高く、委員として、商店街の方はもとより学生や主婦、高齢者といった、20 歳代から 80 歳代までの幅広い層から多数のご参加をいただくとともに、多摩区役所、総合企画局、まちづくり局等、関係各課からの参加も得て、8 回の委員会と 2 回のワークショップを開催しました。参加者の延べ人数は約 540 人にものぼり、委員会以外にも、更に議論を深められたり、提案事項を調整したりするために自主的な集まりも持たれており、今回のビジョンは、そういった地域への熱い思いを反映した内容となっています。

したがいまして基本計画では、様々な立場の人が同じテーブルについて、「商業の活性化」というテーマの下に検討しております。また、今回の基本計画は、実現が可能なビジョン、特にすぐできるものを具体的に明記しました。提案では、商業サポーター軍団「のぼりとゆうえん隊」の結成や、地元大学と商店街との連携によるイベント、商店街イベントへの地域住民の参加、空き店舗の活用による街かどカフェやコミュニティ事業の実施、学生や住民との協働による地域情報ホームページの運用といった他、多くのプランが挙げられています。

もとよりまちの活性化は、まちで暮らす人々、まちで事業を営む人々が主体的に考え、行動するものであり、さらに多くの住民の方々や関係者の方々による積極的な参加が必要と考えます。つまり、基本計画を実現するためには、一部の人が一生涯懸命活動しても達成できません。

地域で生活する人々が、それぞれの立場で「自分が出来る範囲」で活動することが地域のまちづくりに参加する一歩と言えます。元気で魅力のある地域、一度は行ってみたいと思われるまちにするため、皆様の積極的な参加を期待しております。

最後に、アンケート調査にご協力いただきました川崎信用金庫の皆様、市民及び専修大学の関根ゼミの皆様、基本計画づくりに参加していただいた事業者・住民の皆様、専修大学・明治大学の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に、紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成 15 年 3 月

川崎市経済局

目 次

ごあいさつ

1 . 基本計画策定の目的と方法	1
1 - 1 計画策定の目的	
1 - 2 計画策定の方法	
2 . 登戸の街	2
2 - 1 計画対象地区	
2 - 2 地区の現況と特性	
2 - 3 消費者・商業者の意向	
2 - 4 関連する構想・計画	
2 - 5 計画の課題	
3 . 商業まちづくりの基本方針	21
3 - 1 基本的な方針	
3 - 2 魅力を実現するための資源の活用	
4 . 商業まちづくりの方策と内容	24
4 - 1 魅力づくりの方策	
4 - 2 商業活動充実の方向	
4 - 3 商業まちづくりの内容	
5 . 短期・中期に取り組むべき企画提案	30
5 - 1 短期・中期プロジェクトの方針	
5 - 2 主要な短期・中期プロジェクト	
5 - 3 ワークショップで発表された企画提案	
6 . 企画提案の実現に向けて	42
6 - 1 “のぼりとゆうえん隊”の設立	
6 - 2 商業者のネットワークの強化	
6 - 3 行政施策の地区レベルでの総合性の確保	
6 - 4 長期的・継続的なまちづくり体制の確立	

[資料編]

- | | |
|-------------------|-----------------|
| (1) 構想策定の経緯 | (3) 5 7 の企画提案 |
| (2) ハード系質問内容と回答 | (4) 委員会委員名簿 |

1 . 基本計画策定の目的と方法

1 - 1 計画策定の目的

この計画は、登戸地区のまちづくりと活性化の中で商業の振興を図っていくための基本計画を策定することを目的としています。

川崎市では、「川崎新時代 2010 プラン」を策定し、市勢振興の方向を明らかにしていますが、その中で都心として川崎駅周辺地区、新川崎・鹿島田駅周辺地区、小杉駅周辺地区、新百合ヶ丘駅周辺地区を、副都心として溝口駅周辺地区、宮前平・鷺沼駅周辺地区、登戸駅周辺地区を位置づけています。

登戸駅周辺地区では、土地区画整理事業によって都市計画道路・駅前広場・公園等の都市施設の整備が進められていますが、昭和63年の事業開始以来現在もまだ継続中です。

一方、川崎市経済局では平成13年度に「川崎市地域商業振興ビジョン」を策定し、地域振興と商業振興を一体的に展開して活性化を図るものとしています。

この基本計画では副都心として望ましい地域と商業のあり方を商業者・地域住民等で協働して策定することとしました。

1 - 2 計画策定の方法

基本計画を策定するにあたっては、「登戸地区商業ビジョン基本計画検討委員会」を設けて委員会を中心として検討を進めてきました。8回にわたる委員会の開催、2回のワークショップによる市民、商業者との意見交換、消費者・商業者アンケート調査を行う中で計画をとりまとめました。

委員会の構成、開催経緯については、巻末資料のとおりです。

きめ細かな計画にするために、委員会では図-01 のとおり、「登戸駅周辺地区」、「向ヶ丘遊園駅周辺北口地区」、「向ヶ丘遊園駅周辺南口地区」の3つの部会を設けて検討を行って来ました。

2 . 登戸の街

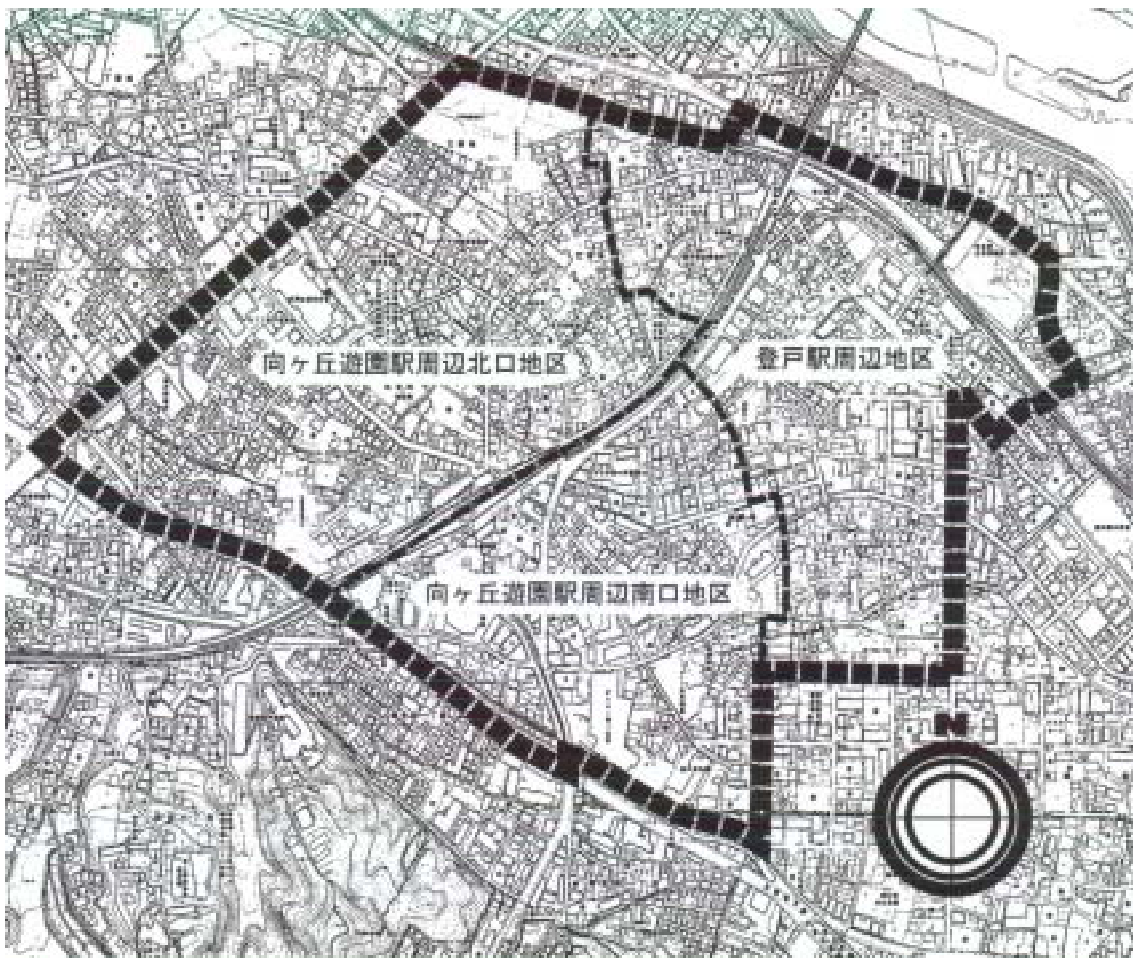
2 - 1 計画対象地区

この基本計画で対象とするのは、図 - 01 に示すように登戸駅、向ヶ丘遊園駅を含む多摩区登戸のうち商業施設が集積している区域とします。

区域の面積は約 70h a です。

平成 12 年国勢調査による区域内調査区の集計では、居住人口は 9,829 人（男 5,248 人、女 4,601 人）、世帯数は 5,693 世帯です。平均世帯人員は 1.73 人 / 世帯で、川崎市平均の 2.03 人 / 世帯より低くなっています。

図 - 01 計画対象地区



2 - 2 地区の現況と特性

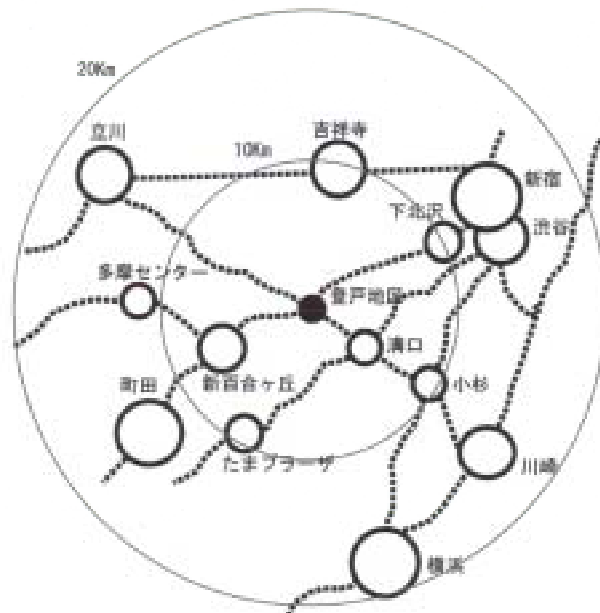
(1) 広域的な条件

位置的な特性

登戸地区の位置的な特性としては2つ挙げられます。

1つは交通条件であり、都心(新宿)方向へ結ぶ小田急線と都心から環状方向(川崎~立川)を結ぶ南武線が通っており、登戸駅はその結節点になっていることです。もう1つは、これら鉄道沿線には、登戸地区と競合する商業地区が分布していることです。登戸地区から10Km圏内には、新百合ヶ丘、たまプラーザ、溝口、小杉などの商業地があり、また20Km圏内には新宿、町田、多摩センターのような商業地があります。

図 - 02 広域的な位置



周辺地域の状況

登戸地区は南部の丘陵地と北部の多摩川に挟まれた平坦な地形となっています。多摩川は河川敷のスポーツ施設利用、ボート遊び、サイクリングなどのレクリエーションの場としてよく利用されており、登戸駅は南武線各駅の中でも多摩川に最も近接した位置にあります。南部の丘陵地には、生田緑地、日本民家園、ばら苑、岡本太郎美術館、青少年科学館、枳形山展望台などがあります。

このうち日本民家園入園者数は91,949人/年、青少年科学館入館者数は47,071人/年、岡本太郎美術館入館者数は70,976人/年(いずれも平成13年度)となっています。

なお、75年の歴史をもった向ヶ丘遊園地が平成14年3月に閉園して、バラ園については、川崎市によって生田緑地内ばら苑として、平成14年5~6月、10~11月に一般開放されました。

また、専修大学、明治大学等が立地しており、特に専修大学は教職員 1,100 人、学生約 18,000 人と大規模校で、その多くが向ヶ丘遊園駅を利用しており、駅周辺を中心として学生街としての性格が強くなっています。

図 - 03 周辺地域の状況



(2) 市街地の現況と特性

市街地

計画対象地区には南武線と小田急線が通っており、登戸駅、向ヶ丘遊園駅の2つの駅を中心としたツイン・コアの街として形成されています。

小田急線より北側一帯と一部南側は土地区画整理事業区域に含まれているため、部分的には新しい道路が整備されていますが、全体としては街区が未整備で商業と住宅が混在した状況です。県道世田谷町田線に面して多摩区役所が位置しており、周辺で最も大きな建物となっています。

街の賑わいを商店街通行量調査(平成13年度、休日)で見ると、最も人通りの多いのが遊園南口商店会の18,063人で、次いで登戸駅前商店会の7,018人、区役所通り登栄会商店街の6,080人、民家園通り商店会の5,765人となっています。

交通施設

地区内の鉄道駅は登戸駅、向ヶ丘遊園駅の2駅ですが、登戸駅は小田急線とJR南武線の乗換駅となっています。各駅の乗車人員の推移は表-01のとおりです。

乗車人員は、登戸駅が向ヶ丘遊園駅よりもはるかに多くなっており、登戸駅では、南武線、小田急線がほぼ同じ位利用されています。

乗車人員の推移をみると両駅ともに僅かずつですが減少しており、特に定期利用客の減少傾向が顕著です。

表-01 鉄道乗車人員推移

単位：1,000人

	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12
(南武線)					
登戸	26,068	25,777	25,435	25,267	24,888
定期外	7,965	7,835	7,743	7,831	7,818
定期	18,103	17,942	17,672	17,436	17,070
(小田急線)					
登戸	25,328	25,314	24,991	24,686	24,316
定期外	7,541	7,656	7,608	7,702	7,651
定期	17,787	17,657	17,383	16,983	16,665
向ヶ丘遊園	12,218	12,101	12,080	11,929	11,672
定期外	3,899	3,914	3,928	4,045	4,030
定期	8,319	8,187	8,152	7,884	7,642

資料：神奈川県県勢要覧

地区内にある2つの駅の利用状況を示したものが表-02、表-03です。登戸駅は、武蔵溝ノ口駅よりは僅かに少ないですが、下北沢駅よりも多くなっています。

表-02 南武線沿線駅乗車人員

	計	うち定期外
尻手	3,646	1,207
矢向	4,926	1,327
鹿島田	5,195	1,661
平間	4,762	1,410
向河原	3,579	927
武蔵小杉	23,483	7,815
武蔵中原	11,371	3,100
武蔵新城	10,079	3,321
武蔵溝ノ口	24,944	8,149
津田山	1,104	530
久地	4,335	1,323
宿河原	2,573	954
登戸	24,888	7,818
中野島	4,887	1,423
稲田堤	6,445	1,990
矢野口	2,548	843
稲城長沼	2,580	774
南多摩	2,592	795
府中本町	6,314	3,934
分倍河原	12,534	3,392
谷保	3,239	1,145
矢川	2,403	857
西国立	3,311	1,156

表-03 小田急線沿線駅乗車人員

	計	うち定期外
南新宿	683	392
参宮橋	2,429	1,374
代々木八幡	3,407	1,608
代々木上原	27,257	5,052
東北沢	1,563	849
下北沢	23,526	9,124
世田谷代田	1,571	780
梅ヶ丘	4,551	1,943
豪徳寺	4,759	2,045
経堂	11,710	4,121
千歳船橋	8,825	3,209
祖師ヶ谷大蔵	6,405	2,815
成城学園前	15,737	5,705
喜多見	5,419	2,110
狛江	7,823	2,721
和泉多摩川	2,738	999
登戸	24,316	7,651
向ヶ丘遊園	11,672	4,030
生田	7,993	2,629
読売ランド	5,951	1,994
百合ヶ丘	3,189	845
新百合ヶ丘	17,165	6,823
柿生	6,463	2,003
鶴川	11,238	3,745
玉川学園前	8,481	2,915
町田	51,064	20,820
相模大野	15,294	6,172

いずれも平成12年 単位：1,000人/年

資料：東京都統計年鑑、神奈川県勢要覧

幹線道路としては、世田谷町田線、川崎府中線、小杉菅線が地区界を通っており、また、登戸駅、向ヶ丘遊園駅から周辺地域へのバスが運行されていて、交通条件には恵まれています。

向ヶ丘遊園駅から向ヶ丘遊園地まで運行されていたモノレール線(1.1Km)は、

平成 13 年 2 月に廃止となっており、平成 14 年 6 月から撤去作業が行われています。

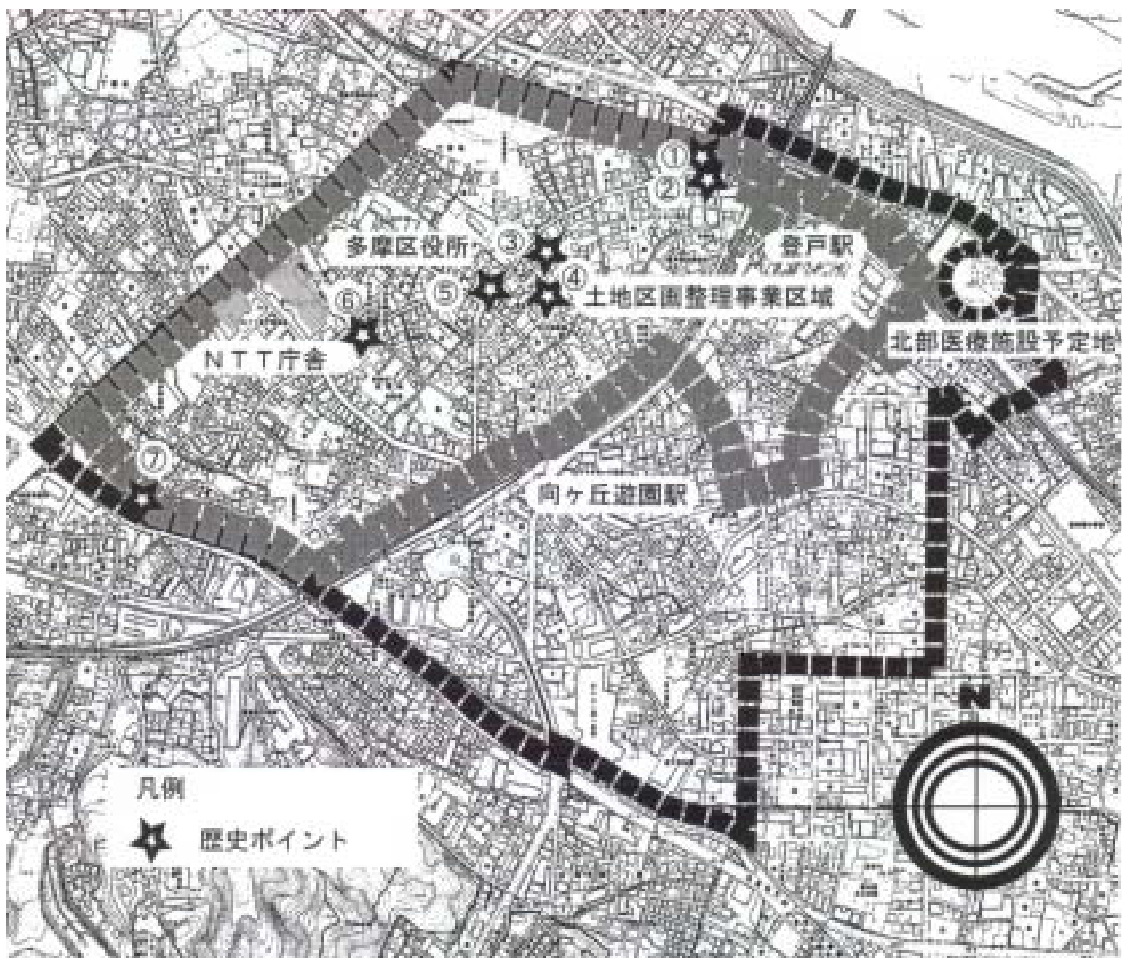
アメニティ（快適環境）資源

地区内には津久井道が通っています。津久井道は東は多摩川を渡って三軒茶屋と結び、西は橋本から津久井地方に至る道で、地区内の以下の地点には現在川崎歴史ガイドの説明板が立てられています。

「石屋と石屋河岸」、「北向地蔵と馬頭観音」、「登戸宿と柏屋」、「供養塔と水争い」、「登戸の下駄づくり」、「多摩川の筏流し」、「ニヶ領用水と小泉橋」

土地区画整理事業区域、主要施設、アメニティ（快適環境）資源の分布を示したものが図-04 です。

図 - 04 地区特性



(3) 商業活動の現況と特性

繁華街の状況

おおむね60店舗以上の小売店が連続して街区を形成している集積地域を繁華街として捉え、特別集計がされていますが、地区内には図-05、表-04のように2つの繁華街があります。

図-05 繁華街の区域



表-04 繁華街の状況

単位:店、人、m²、万円

	登戸				向ヶ丘遊園			
	商店数	従業者数	売場面積	年間商品販売額	商店数	従業者数	売場面積	年間商品販売額
計	67	422	6,004	654,637	177	1,154	17,165	2,178,008
各種商品	0	0	0	0	1	x	x	x
織物・衣服・身の回り品	7	30	418	42,758	47	207	3,782	356,987
飲食料品	26	190	1,986	267,037	52	377	3,428	414,499
自動車・自転車	0	0	0	0	2	x	x	x
家具・じゅう器・家庭用機器器具	7	40	2,073	99,919	19	89	2,087	226,846
その他の小売業	27	162	1,527	244,923	56	324	3,456	480,978
地域特性	主に後背の住宅地区の購買客を対象としている地域				主に市内在住の購買客を対象としている地域			
立地特性	駅周辺小規模型				駅周辺中規模型			
販売商品特性	最寄品中心街				最寄品・買回品混合街			

X は秘匿数字

資料:平成9年商業統計調査

商店街と大型店の状況

地区内には9の商店街があり、会員数は合計で347です。

それぞれの商店街の名称と位置、会員数は、図-06、表-05のとおりです。

図-06 商店街の分布



表-05 登戸地区の商店街

名称	会員数	本計画における部会
計	347	
登戸駅前商店会	79	登戸駅周辺部会
登戸東通り商店会	40	遊園駅北口周辺部会
中店通り商店会(＊)	37	遊園駅北口周辺部会
登戸中央銀座商店会	19	遊園駅北口周辺部会
区役所通り登栄会商店街振興組合	61	遊園駅北口周辺部会
新川通り商店会	17	遊園駅北口周辺部会
民家園通り商店会	50	遊園駅南口周辺部会
遊園南口商店会	34	遊園駅南口周辺部会
中和ビル商店会	10	遊園駅南口周辺部会

(＊)は社団法人川崎市商店街連合会未加盟

資料:川崎市商店街名簿(平成14年11月1日作成)

また大型店は表-06のように3店舗立地しています。

表-06 大型店の立地状況

単位：m²

	名称	所在地	開店日	業態	延床面積	店舗面積
第1種	向ヶ丘ショッパースポザ	登戸2789	46.9.10	スーパー	16,788	10,136
第2種	家具の大正堂登戸店	登戸2535-1	43.9.15	家具	2,258	1,846
	スーパー永井登戸店	登戸2428	59.2.7	スーパー	2,185	761

*種別は旧大店法による区分

*中和ビルの第一家電株は撤退

資料：大規模小売店舗の概要 平成12年5月31日現在

商店街の活動

商店街では、それぞれにイベント活動等が行われています。

主なものを挙げると以下のとおりです。

- * 区役所通り登栄会商店街(振):「夏まつり」
- * 民家園通り商店会 :「夏まつり」
「ありがとうセール お花鉢プレゼント」
- * 登戸東通り商店会 :「中元大売出し」
「サンタが幸せを連れてくる」
「わくわく のぼりとナイトバザール」(平成13年~)
情報誌「登戸宿かわら版」(現在7号)
- * 登戸駅前商店会 :「歳末福引き大売出し」

関連する市民活動

商業に関連する市民活動として、次のものがあります。

- * ホームページ「登戸ネット」
登戸の総合情報サイトとして、「登戸ってこんな街」、「特選登戸情報」、「みんなの登戸MAP」、「登戸のお店紹介」を見ることが出来ます。
- * コミュニティ通貨アーチ
アーチ・クラブの会員の間で循環するコミュニティ通貨としてアーチが設けられています。

2 - 3 消費者・事業者の意向

(1) アンケート調査にみる意向

基本計画を策定するための基礎資料として、対象地区の商店街会員へのアンケート調査と川崎信用金庫および専修大学関根ゼミの協力を得て多摩区内に住む消費者へのアンケート調査を行い、それぞれの立場からみた意向を訊ねています。

事業者アンケート調査は、平成 14 年 9 月実施、サンプル数 350、消費者アンケート調査は、平成 14 年 10 月実施、サンプル数 250 です。

その結果の主なものを以下に挙げます。

消費者の平日・休日の買物先

消費者の平日の買物先と休日の買物先を比較すると、登戸駅周辺の商業エリア、向ヶ丘遊園駅周辺の商業エリアともに平日の方がよく利用されており、休日になると利用する割合が下がっています。

一方休日により多く出かけて行くのは、新百合ヶ丘駅周辺の商業エリア、町田駅周辺の商業エリアや東京、横浜方面、市内のロードサイドの商業施設となっており、その理由としては品揃えが充実、好み・目当ての品がある等となっています。

	平日	休日
計	100.0	100.0
近所の商店街やスーパー	39.5	25.2
向ヶ丘遊園駅周辺の商業エリア	11.4	7.4
新百合ヶ丘駅周辺の商業エリア	8.2	14.7
登戸駅周辺の商業エリア	8.0	5.0
溝口駅周辺の商業エリア	7.0	7.1
東京方面の商業エリア	6.8	14.3
通販・宅配の利用	4.6	1.7
町田駅周辺の商業エリア	4.4	6.9
市内ロードサイドの商業施設	2.4	4.8
横浜方面の商業エリア	1.9	5.2
川崎駅周辺の商業エリア	1.5	1.9
たまプラーザ駅周辺の商業エリア	1.2	1.4
小杉駅周辺の商業エリア	1.0	0.5
立川方面の商業エリア	0.7	1.4
その他	1.5	2.6

消費者の期待と商業者の課題

消費者は近くの商店街に何を期待するか、また商業者は何が商店街が取り組むべき課題と考えているかを聞いたものです。消費者が期待しているのは、「営業時間の延長」、「共同売出し」、「モール化など歩行環境の整備」、「カード・スタンプ事業」、「有機野菜などの取扱」、「日曜営業」などが上位です。

一方、商業者が考えているのは、「モール化など歩行環境の整備」、「イベントの充実」、「インターネットでの情報発信」、「空き店舗の活用」などとなっています。

(* 「特に何も期待していない」は消費者のみに対する設問)

表-08 消費者の期待と商業者の課題

	消費者		商業者	
	実数	%	実数	%
計	411	100.0	468	100.0
営業時間延長	59	14.4	19	4.0
共同売出し	35	8.5	24	5.0
モール化など歩行環境の整備	28	6.8	56	11.8
カード・スタンプ事業	27	6.6	15	3.2
有機野菜などの取扱	26	6.3	3	0.6
日曜営業	25	6.1	21	4.4
イベントの充実	23	5.6	50	10.5
商品の路上はみだしの解消	22	5.4	23	4.8
空き店舗の活用	22	5.4	30	6.3
宅配サービス	18	4.4	13	2.7
バリアフリー化	17	4.1	25	5.3
街路灯の設置・更新	14	3.4	25	5.3
トイレの設置	12	2.9	12	2.5
環境問題への取り組み	12	2.9	27	5.7
地域との交流事業	11	2.7	22	4.6
子供の遊び場の充実	8	1.9	18	3.8
アーチの設置・更新	7	1.7	9	1.9
ミニコミ誌の発行	5	1.2	7	1.5
インターネットでの情報発信	2	0.5	36	7.6
一時保育所の設置	1	0.2	9	1.9
通信販売	1	0.2	5	1.1
その他の課題	4	1.0	19	4.0
なし・その他	2	0.5	8	1.7
特に期待していない	30	7.3		

商店街のイベント

消費者、商業者に商店街のイベントについて訊ねています。

消費者が望んでいるのは、「企画・物産展」_、「フリーマーケット」_、「コンサート」_、「イルミネーション」_、「大道芸パフォーマンス」_、「夜店・模擬店」などです。一方、商業者が考えているのは、「イルミネーション」_、「大道芸パフォーマンス」_、「夜店・模擬店」_、「フリーマーケット」_、「スタンプラリー」_、「コンサート」となっています。

表-09 商店街のイベント

タイプ	内容	消費者		商業者	
		実数	%	実数	%
計		693	100.0	396	100.0
販売型	企画・物産展	55	7.9	21	5.3
	フリーマーケット	51	7.4	35	8.8
	夜店・模擬店	35	5.1	36	9.1
	その他	13	1.9	2	0.5
参加型	盆踊り・阿波踊り	26	3.8	14	3.5
	カラオケ大会	19	2.7	9	2.3
	仮装行列	13	1.9	3	0.8
	その他	0	0.0	3	0.8
ショー型	大道芸パフォーマンス	35	5.1	37	9.3
	パレード	21	3.0	3	0.8
	サンバ	6	0.9	3	0.8
	民謡ショー	6	0.9	1	0.3
	その他	1	0.1	2	0.5
こども向け	ミニ動物園	31	4.5	8	2.0
	キャラクターショー	27	3.9	18	4.5
	こどもみこし	21	3.0	9	2.3
	似顔絵コンテスト	7	1.0	6	1.5
	その他	2	0.3	2	0.5
プレゼント型	先着プレゼント	34	4.9	12	3.0
	スタンプラリー	33	4.8	27	6.8
	ビンゴ	25	3.6	17	4.3
	その他	2	0.3	3	0.8
歳時型	イルミネーション	46	6.6	42	10.6
	餅つき大会	28	4.0	6	1.5
	七夕飾り	19	2.7	16	4.0
	その他	13	1.9	2	0.5
文化型	コンサート	48	6.9	25	6.3
	美術展	20	2.9	8	2.0
	シンポジウム	11	1.6	2	0.5
	その他	3	0.4	2	0.5
その他のイベント		0	0.0	4	1.0
商店街のイベントには興味がない		26	3.8		
特にイベントは必要ない		16	2.3	18	4.5

空き店舗の活用方法

消費者、商業者に空き店舗の活用方法を訊ねています。

消費者が望んでいるのは、「喫茶・飲食などのくつろぎの場に」が最も多く、次いで「高齢者の憩いの場に」、「地域住民の交流の場に」となっており、市民的な利用が求められているようです。これらに次いで「一般への貸出し(一坪ショップ)」、「リサイクルステーション」となっています。

また、消費者からは「画廊やミニ博物館に」、「ミニコンサート会場に」といった文化的な施設利用が多いのも特徴的です。

一方、商業者が考えているのは、「一般への貸出し(一坪ショップ)」、「高齢者の憩いの場に」、「みんなが展示・即売等できる場に」の3つが最も多く、ほぼ同数となっています。

また「地域の生活に必要な業種の誘致」が5位になっていますが、消費者に比べると商業者が考えている活用方法は、内容が広く分散しています。

表-10 空き店舗の活用方法

	消費者		商業者	
	実数	%	実数	%
計	364	100.0	330	100.0
喫茶・飲食などのくつろぎの場に	60	16.5	30	9.1
高齢者の憩いの場に	51	14.0	45	13.6
地域住民の交流の場に	41	11.3	23	7.0
一般への貸出し(一坪ショップ等)	40	11.0	46	13.9
リサイクルステーション	36	9.9	20	6.1
みんなが展示・即売等のできる場に	31	8.5	44	13.3
画廊やミニ博物館に	<u>21</u>	<u>5.8</u>	14	4.2
ミニコンサート会場に	<u>21</u>	<u>5.8</u>	20	6.1
地域の生活に必要な業種の誘致	15	4.1	<u>27</u>	<u>8.2</u>
保育施設として	13	3.6	17	5.2
地域住民のアイディアで自由に使えるように	6	1.6	17	5.2
特に必要性を感じない	12	3.3	4	1.2
その他	0	0.0	6	1.8
分からない	17	4.7	17	5.2

登戸地区の将来像

登戸地区の将来像について訊ねています。

消費者は「多摩川・生田緑地などへのレクリエーション拠点の街」、「大型店を柱とする商業の街」、「専門店を主体とする商業の街」を望んでいます。

一方、商業者は「専門店を主体とする商業の街」、「多摩川・生田緑地などへのレクリエーション拠点の街」、「飲食・アミューズメントの街」そして「大学の教育・研究や学生生活を支援する学生街」を選んでいきます。

表-11 登戸地区の将来像

将来像	消費者		商業者	
	実数	%	実数	%
計	305	100.0	310	100.0
多摩川・生田緑地などへのレクリエーション拠点の街	67	22.0	59	19.0
大型店を柱とする商業の街	61	20.0	29	9.4
専門店を主体とする商業の街	58	19.0	96	31.0
飲食・アミューズメントの街	43	14.1	41	13.2
わからない	28	9.2	14	4.5
大学の教育・研究や学生生活を支援する学生街	24	7.9	38	12.3
中高層住宅主体の都市型住宅地	13	4.3	21	6.8
IT産業を中心とした小中規模のビジネスの街	10	3.3	9	2.9
その他	1	0.3	3	1.0

(2) 街あるきの中から見たい問題

登戸地区の商業環境について、第2回委員会の街あるきの中で次のような問題が指摘されています。

- * 待ち合わせする場所、休憩場所、友達と集まれる場所がない。
- * 商店街のサインがない、消費者に訴える広告が少ない、情報がない。
- * 生鮮3品が揃っていない、日用雑貨店、自転車屋、バイク屋がない。
- * 飲み屋が多いのを活かして、飲み屋横丁として整備
- * 津久井道の歴史的なお店。提灯屋、下駄屋、古くからの店の良さ、提灯屋のような特徴のある店を大事にする。
- * 好きなお店はある、パン屋。良い店がけっこうある。PR方法、表示方法を考える。
- * 学生の街として活かすには：レンタルビデオ、専門書を取り扱う大型本屋、不動産屋、定食屋、ファーストフードなどの飲食店も欲しい。
- * 商店街にパブリックスペースを設け、子供から高齢者まで利用できる遊び、休息の場をつくる。
- * 上層階に学生かファミリー用のマンションを設置し定住人口を増やす。
- * 空き店舗を利用して連続的なイベントをやる。
- * 街中すべて花がない。駅前の植木にゴミが放置してある。
- * 駅前に魅力ある大型店が欲しい
- * ファッション性の高い店、文化の香りのする専門店の誘致
- * 女性も気軽に利用できる店を作る。

2 - 4 関連する構想・計画

(1) 川崎新時代 2010 プラン

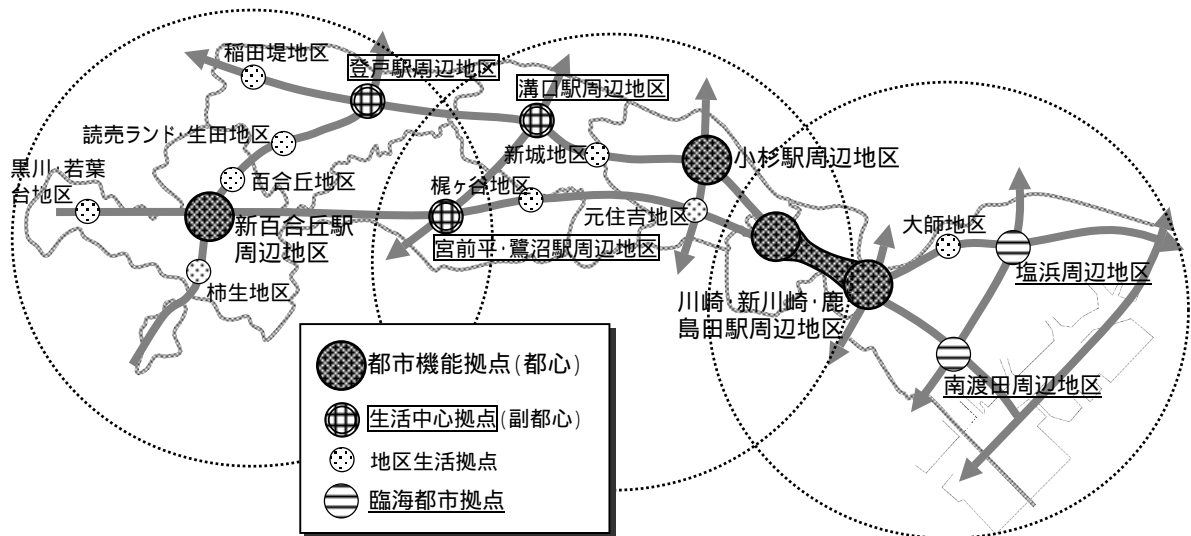
川崎市の長期総合計画「川崎新時代 2010 プラン」は、2010年（平成22年）を目標年次として、1993年（平成5年）に策定されたものです。

この計画では広域的な都市機能拠点として川崎・新川崎・鹿島田駅周辺地区（都心）、新百合丘駅周辺地区（新都心）、小杉駅周辺地区（第3都心）を、また生活中心拠点（副都心）として溝口駅周辺地区、宮前平・鷺沼駅周辺地区、登戸駅周辺地区を位置づけています。

登戸駅周辺地区の整備については、次のように述べられています。

土地区画整理事業などを推進することにより、登戸駅と向ヶ丘遊園駅の駅前広場、都市計画道路、公園などの整備を図り、業務・商業・住宅・文化機能等の調和した拠点の形成を進めます。

図 - 07 2010 プランによる都市拠点整備計画



(2) 川崎市地域商業振興ビジョン

平成14年3月に取りまとめられた川崎市地域商業振興ビジョンでは、川崎市の地域商業を取り巻く環境を分析して7つの課題として整理し、次の3つの柱を目標として商業まちづくりに取り組むこととしています。地域生活のコアとなる商業への転換、まちづくりの観点による商業環境づくり、魅力ある商業集積の形成。登戸地区商業ビジョン基本計画は、この目標を具体的な地区で実践するための試みとして位置づけられています。

(3) 川崎市都市計画マスタープラン(全市プラン)

都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を定めるもので、おおむね20年後の都市像を描きます。

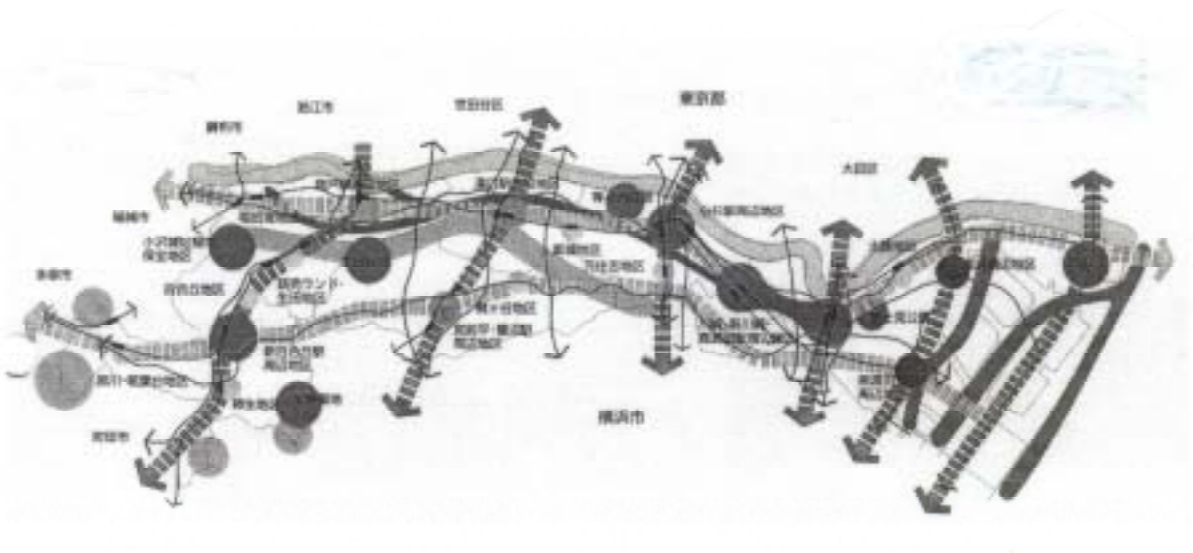
現在、川崎市全体に関する全体構想の素案が平成10年7月に公表され、現在各区で区別構想の策定が進められています。

全体構想素案の中では登戸駅周辺地区は生活中心拠点(副都心)として位置づけられており、「生活・文化・商業などの機能が調和すると共に、快適な住環境を兼ね備えた自立性のある拠点です。」とされています。

また、縦貫都市軸、横断都市軸が交差し、水の軸(二ヶ領用水)の整備を進めるものとされています。

区プランとなる多摩区構想は、平成15年度に策定作業が始まる予定です。

図-08 都市計画マスタープラン将来都市構造図



(4) 登戸地区土地区画整理事業

登戸駅、向ヶ丘遊園駅に隣接する約37.2haの区域で川崎市によって登戸土地区画整理事業が進められています。昭和63年に都市計画・事業計画が決定しており、平成14年3月末現在で仮換地指定面積が約33%の進捗率になっています。

土地区画整理事業の中で6本の都市計画道路、登戸駅、向ヶ丘遊園駅の2ヶ所の交通広場、3ヶ所の児童公園が整備されることになっています。

また、地区内登戸駅東側の一部、約2.2haについては、平成6年5月に「登戸地区地区計画」が定められています。

図-09 川崎都市計画事業登戸土地区画整理事業設計図



(5) 小田急線高架化事業

鉄道に関する長期的な整備方針を審議勧告する運輸政策審議会では、平成12年1月の答申第18号で、東京9号線(小田急小田原線)について、「和泉多摩川～新百合ヶ丘」間で目標年次である2015年(平成27年)までに複々線化に着手することが適当である路線としています。

現在、地区内で行われているのは、小田急電鉄ホームページによると和泉多摩川～向ヶ丘遊園間(1.4km)の改良工事です。

この工事は多摩川橋梁を架け替え複々線化するとともに、登戸～向ヶ丘遊園間については上り2線、下り1線の3線とするものです。これによって上り方向に対しては複々線化と同等の輸送効果を発揮出来るようになり、向ヶ丘遊園駅から列車の増発が可能になります。完成予定は2008年度となっています。

(6) 北部医療施設等

「川崎新時代2010プラン」の「新中期計画1999～2003」では、登戸地区に関連する計画として、次のものが挙げられています。

(多摩区)

事業コード	計画事業名	2000年度～2003年度
13511	北部医療施設の整備	設計・着工
31232	登戸駅南北自由通路の整備	概略設計、基本設計、着工、完成
32311	都市計画マスタープランの策定	区別構想、都市計画マスタープラン策定
35231	小田急小田原線複々線化事業の促進	工事
35311	道路改良事業(国県道改良)	工事(川崎府中線、横浜生田線ほか)
41131	商店街活性化事業の推進	商店街のモール化・イベント賑わい事業等推進、やさしい商店街づくり推進
46323	行政サービスコーナーの拡充	1ヶ所開設(登戸駅周辺)

北部医療施設について、設置場所はJR登戸駅の北側で、概要・スケジュールは、以下のようになっています。

運営主体は、聖マリアンナ医科大学病院です。

診療科は6診療科で、総病床数を376床とし、建物規模は地上6階、地下2階建てで、延床面積は地下駐車場を除き、約28,500m²とされています。

今後のスケジュールは次のとおりとなっています。

- | | |
|---------|-------------|
| 12年度 | 基本設計 |
| 13年度 | 実施設計 |
| 14～16年度 | 建設工事・医療器械整備 |
| 17年度 | 開設 |

2 - 5 計画の課題

登戸地区の位置的な特性、地区の現況や動向にもとづいて整理すると、登戸地区商業ビジョン基本計画の課題は以下のようになります。

(1) 近年の景気低迷、郊外での大型店立地による購買力流出によって、市街地での商業不振の状況が続いていますが、地域の消費者へよりよいサービスを提供するためには市街地内の商業の活性化をはかる必要があります。

(2) 登戸地区では、地区面積の過半を占めている土地区画整理事業が長期化し、未整備の道路でのバス運行によって、交通混雑、事故の危険性を招いており、今後も相当長い期間このような状況が続くことが想定されます。

また、小田急線によって市街地が分断されている状況が長い間続いています。この問題については現在行われている3線化工事によっても抜本的な解決とはならず、市街地分断解消に向けた取組みが求められています。

(3) 商業活動の面では、登戸地区は2つの繁華街によって構成される多摩区内の主要な商業地であり、多くの人々に利用されています。地区内には9の商店街があり、また特色のある店舗もありながら、土地区画整理事業の長期化によって商業投資が出来なかったこともあり、休日には消費者は新百合ヶ丘や町田などへ流出するなどニーズに対応できていない状況です。

(4) 登戸地区は商業発展のポテンシャルが高い地区です。南武線、小田急線の2本の鉄道が交差していて交通条件に恵まれており、沿線の駅の中でも利用人員が多い駅です。

周辺には多摩川や生田緑地・日本民家園・岡本太郎美術館・ばら苑などのレクリエーションの場があって多くの人々に利用されています。

また専修大学・明治大学等が近くに立地しており、学生街としての性格も併せ持っています。

(5) 商業ビジョンでは、長期的には恵まれた諸条件を最大限活用することによって土地区画整理事業によって整備される都市基盤の状況と小田急線の立体化による南北連絡問題の解決を視野に入れた、登戸地区商業の将来の方向づけを明確にすることが求められています。

(6) 当面は現在の停滞した状況から抜け出して、商業活性化を実現するために着手が可能な方策を実施していくことが必要とされています。

北部医療センターの新設、登戸駅南北自由通路の整備、小田急線の3線化の完成と併せて商業活性化のためにソフトな事業を中心とし、短期(3年以内)、中期(おおむね5年以内)で実施可能な方策に重点をおいて策定することを基本計画の課題とします。

3 . 商業まちづくりの基本方針

3 - 1 基本的な方針

(1) 商業まちづくりの方針

登戸地区は、「川崎新時代 2010 プラン」で生活中心拠点（副都心）として位置付けられており、業務・商業・住宅・文化機能等の調和した拠点を形成するものとされています。

このような拠点を形成するために、恵まれた交通条件や豊かな周辺の資源とツイン・コアの地区特性を最大限活かして計画的なまちづくりを進め、魅力的な地域密着型の商業地づくりを目指します。

商業ビジョンの内容は、長期的には土地区画整理事業等が完成し、魅力的な商業地を形成するために目指すべき方針と、その実現のために当面現在の停滞状況を脱却して短期・中期に取り組むべきプロジェクトとの2段階構成とします。

(2) 商業まちづくりのプロセス

商業は立地産業であるといわれています。長期的に登戸地区の商業活性化をはかるためには、立地条件を改善し、街の環境を整えて登戸地区を地区ぐるみでシティセールスを行うことが必要です。

このため図のようなプロセスをたどって商業まちづくりを進めていくことにします。登戸地区に多くの人々が集まってくるような魅力的な環境を創ることを基本的な方針とします。

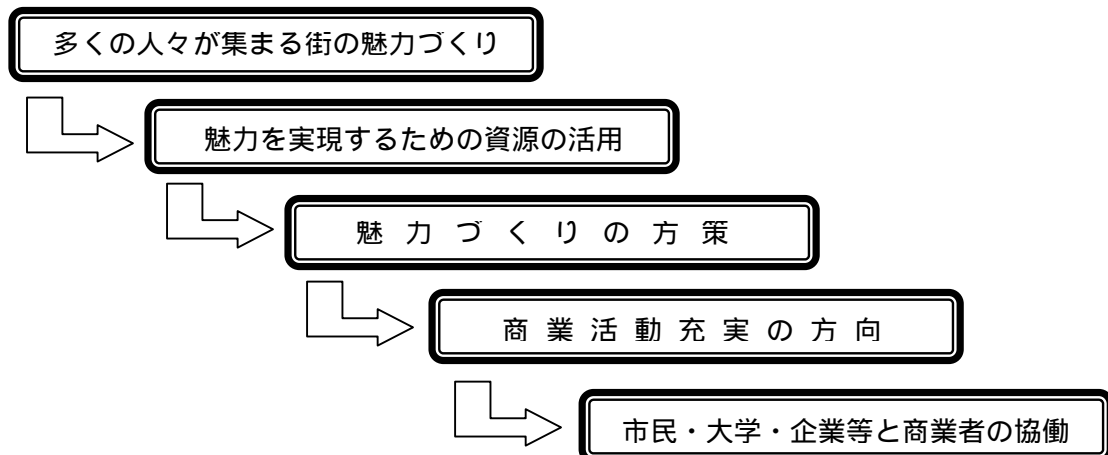
街に魅力をつくるために自然的、社会的なあらゆる資源を活用します。

魅力づくりの方策として「街のイメージを創る」、「街に賑わいを創る」、「街の環境を創る」の3つの方向で商業まちづくりを進めるものとします。

街が魅力にあふれ、多くの人々が集まってくる街にふさわしい商業自体の充実をめざします。

このような姿を実現するためには商業者だけでなく、市民や関係者が一体となった協働の取り組みで進める必要があります。

図-10 商業まちづくりの基本方針



3 - 2 魅力を実現するための資源の活用

登戸地区の特性を活かして街の魅力を創り上げるのには、特に3つの資源を活用することが重要です。

(1) 登戸駅周辺、向ヶ丘遊園駅周辺を中心とするツイン・コアの街の特性を活かす

登戸地区内には2つの鉄道駅があり、これらが地区全体の中で核となったいわばツイン・コアのような構造を作っています。

駅が持つ吸引力を有効に活用して商業集積を形成します。

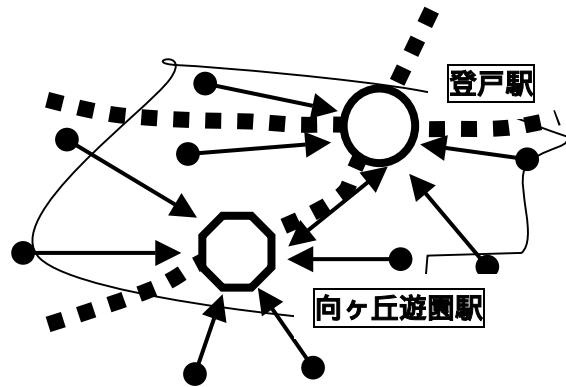
それぞれの駅の性格の違いを反映した商業地とします。

登戸駅は鉄道結節点であり、また南武線各駅の中で最も多摩川に近い位置にあります。一方向ヶ丘遊園駅は、生田緑地や日本民家園などのレクリエーション地区のいわば門前町であり、また大学生等の通学駅となっています。これらの性格の違いを反映した駅前地区にします。

2つの駅周辺を中心として回遊性のある街にします。

2駅周辺を中心にして地区内の歴史的資源などさまざまな特性をネットワーク化し、回遊性をもった街にします。

図-11 ツイン・コアの街の特性を活かす



(2) 小田急線・南武線の鉄道利便性を活かす

登戸地区は都心方面と郊外部を結ぶ小田急線と、川崎、立川と言う首都圏の核都市を結ぶ南武線が通るという非常に交通条件に恵まれた位置にあります。この恵まれた交通条件を十分に活かすことが期待されます。

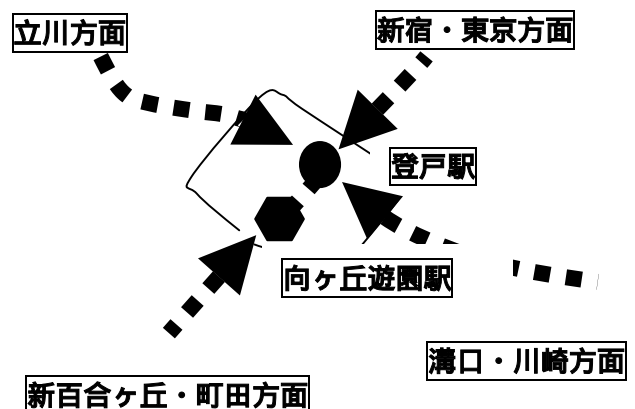
駅の利用特性を活かす

- * 乗降客への利便性を高める
- * 通過客が途中下車する魅力をつくる
- * 乗換客に乗換途中でのショッピングの楽しみをつくる

結節点(=登戸駅)としてのネットワーク特性を活かす

- * 南武線は首都圏の核都市とされている川崎・立川の2つの拠点を結んでおり、しかも沿線には最先端技術を持った事業所が数多く立地しています。また小田急線は新宿・都心と後背住宅地を結んでおり、路線の性格や沿線地区の特性が異なっている2

図-12 南武線・小田急線の鉄道利便性を活かす



つの鉄道が登戸でクロスすることになります。

* このような多様な客層を対象とすることが可能であり、また集客範囲の広さを活かすことも出来ます。

(3) 多摩川、生田緑地、大学等恵まれた周辺環境を活かす

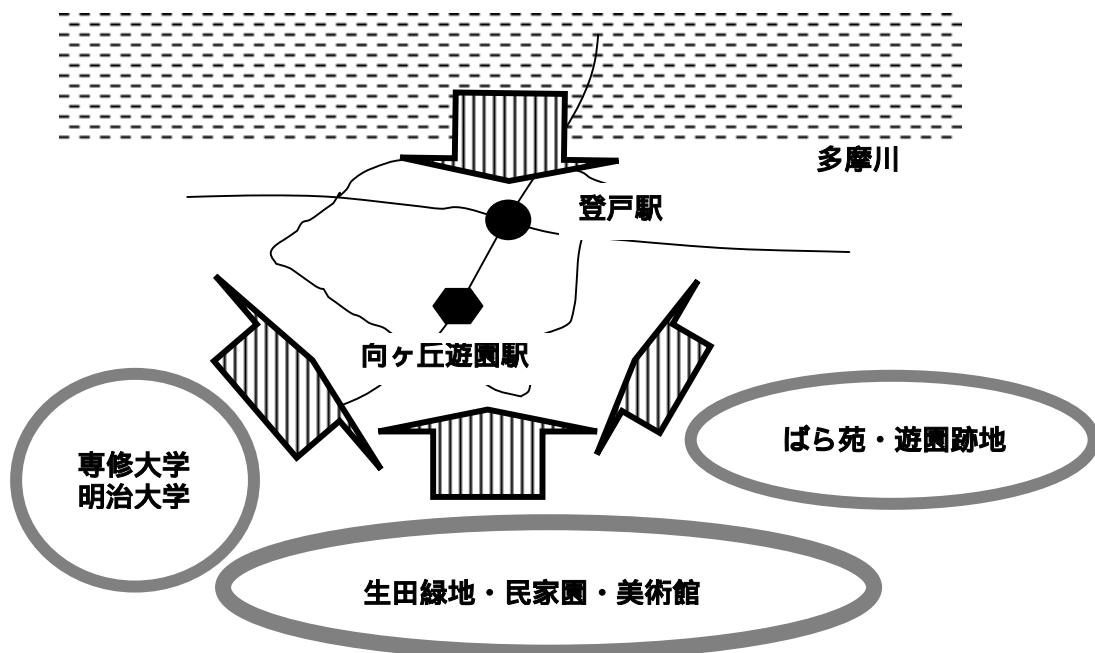
登戸地区が他の商業地と異なる特性は、大変恵まれた周辺環境にあります。多摩川、生田緑地、大学等多くの人々を引きつけるこれらの施設は登戸地区の大きな資産です。大学生は定住しているが夏休み、学年末には減少すること、河川は夏場を中心にピーク・オフピークがあること等それぞれの施設等は人の動きにも特性があるので、その特性に対応させて活用することが重要です。

これらの周辺地区に集まって来る入込み客等を商店街と結ぶ仕組みを作ることが必要です。入込み特性に合わせた業種の店舗導入やイベント等さまざまな方策が考えられます。

周辺の緑地・河川には自然が溢れていますが、これらの豊かな環境を商業市街地の中に取り込んで一体化を図ることが大切です。

便利な交通拠点性に加えて、かながわサイエンスパーク(KSP)、マイコンシティ、IT関連企業などの周辺地区に立地している産業資源を活かしたIT関連ビジネスの集積形成の可能性も考えられます。

図-13 多摩川、生田緑地、大学等恵まれた周辺環境を活かす



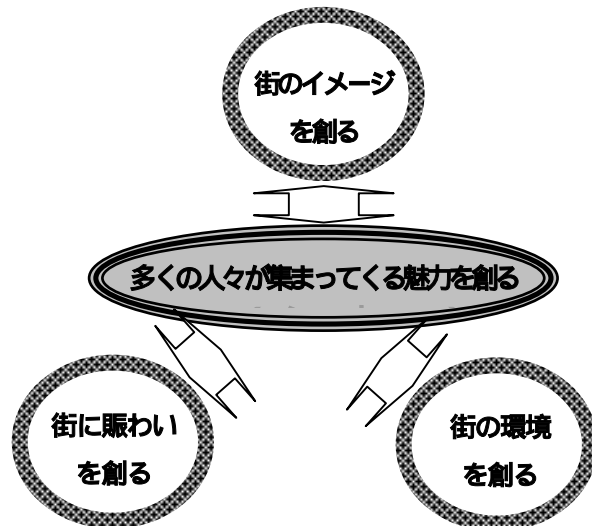
4. 商業まちづくりの方策と内容

4-1 魅力づくりの方策

商業の活性化を図るためには登戸地区に多くの人々が集まってくるのが大事であり、人々を呼込む魅力を創るために3つの方策を推進することとします。

第1に好感もてる「街のイメージを創る」ことであり、第2はさまざまな人々が集まって「街に賑わいを創る」ことであり、さらに第3としては安全で快適な「街の環境を創る」こととします。

図-14 魅力づくりの3つの方策



(1) 街のイメージを創る

好感もてる街のイメージを創るために、主に情報の発信を通じて次の点を検討します。

親しみやすいネーミング

親しみやすいネーミングで地区のイメージアップを図ります。例えば“登戸・向ヶ丘遊園地区”、あるいは向ヶ丘遊園地が閉園となった事に伴う“向ヶ丘遊園駅”の駅名などについて云いやすく、親しみやすいネーミングとすることです。

参加の呼びかけ情報

地区内で催される各種のイベントの開催、友の会等の会の設立にあたっての参加の呼びかけ情報を提供して、参加者の増加、知名度の向上を図ります。

登戸地区へ来る前の情報提供

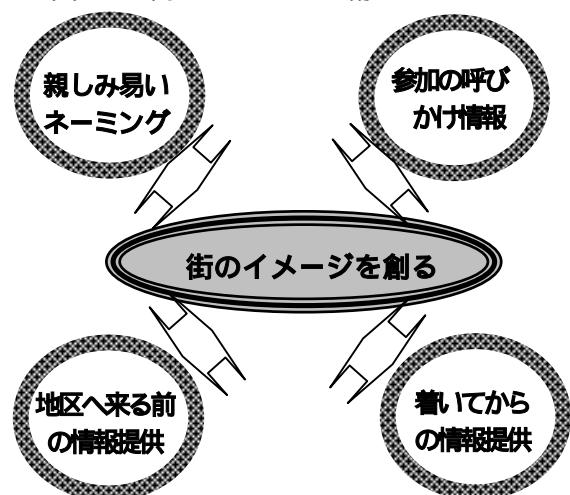
登戸地区へ行って見たいくなるようなイベント・出来事等のお知らせ情報を発信し、動機づけとなるようにします。

登戸へ着いてからの情報提供

駅前などに観光案内板を設ける、散歩コースの案内、催し物の案内、花だよりあるいは、メッセージボードでのメッセ

ージなど登戸に着いてから楽しく有意義に過ごせる情報を提供します。

図-15 街のイメージを創る



(2) 街に賑わいを創る

さまざまな人々が集まって街に賑わいを創るために、イベントの活性化を中心にして次のことを検討します。

年間を通じたイベントシリーズ

登戸地区内、生田緑地や多摩川等周辺地区も含めて行われるイベント等の日程や内容の相互調整を行って、季節ごとのバランスのとれた“祭りごよみ”を作成し、通年のイベントシリーズを行うものとします。

さまざまなアクションと出会える街

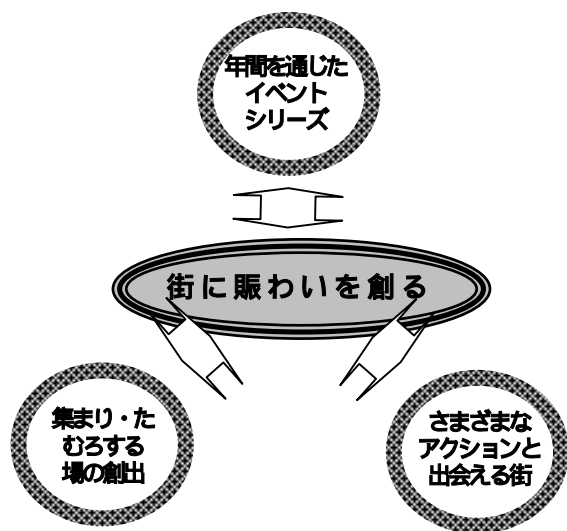
地区内の各地でさまざまなアクションと出会えるようにして街の賑わいを創ります。

駅前に託児施設を設け、子育て中の若い人々が交流出来る、あるいはミニコンサート、ミニ芸術展が出来る文化施設が点在するようにします。

集まり・たむろする場所の創出

空き地や小広場の活用、チャレンジショップ・一坪ショップの開設などによって、ちょっとした集まりや人がたむろして話し合い、情報交換出来るような場所を創り出します。

図-16 街に賑わいを創る



(3) 街の環境を創る

安全で快適な環境を整備して過ごしやすい街にするため次のことを検討します。

安全な交通環境の整備

歩行者・自転車を優先する交通体系にするため、可能な所から安心して街を歩き、買物が出来る環境を整備します。

バリアフリー化と歩行者の安全確保を進め、また道路から店舗内へのスムーズなアクセスが出来るようにして回遊性を高めるようにします。

昼も夜も人々がいる街

住まいと働く場があって昼も夜も人々がいる街にすることが、商業を下支えする重要な役割を果たします。このため良好な市街地住宅を整備し、またIT関連のSOHO(主にパソコンを使った小事務所、自宅利用のビジネス)等身近な就業機会の創出を図ります。

街を花と緑で飾る

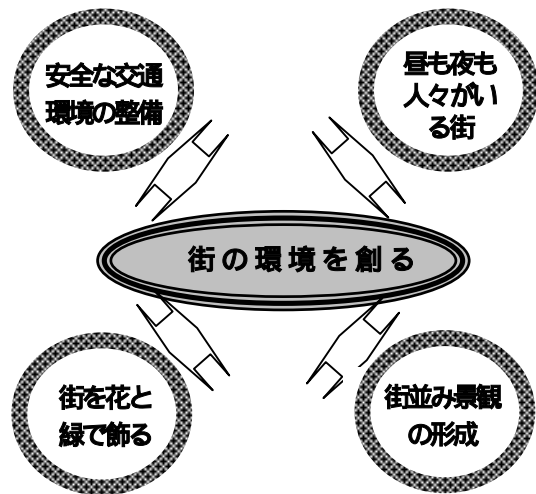
モノレール跡地の利用などで、花と緑で飾り自然の息吹が感じられる街にします。

街並み景観の形成

放置自転車・バイクの整理や都市

図-17 街の環境を創る

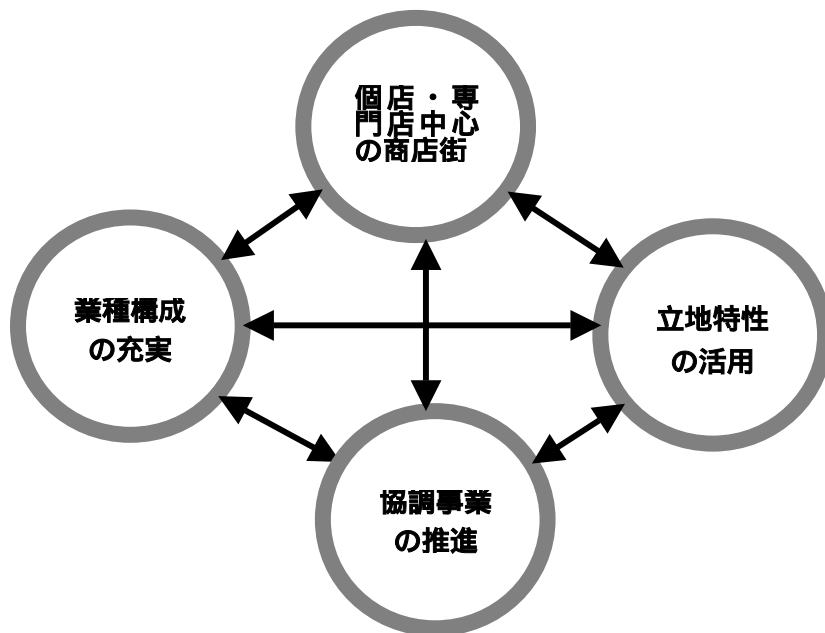
計画道路での電線の地中化を進めて、見た目に不快な風景を改善し、また併せて看板・ファサードが調和を保てるようにします。



4 - 2 商業活動充実の方向

登戸地区が長期的に目指すまちづくりと調和する地域商業は、次のような内容を含んでいることが必要だと思われます。

図-18 商業活動充実の方向



(1) 個店・専門店中心に構成される商店街を目指す

大型店を中心とした商業地ではなく、個店・専門店の魅力によって地域の人々やこの地を訪れる人々と交流し支えられる、地域に密着した商店街となることが望まれます。

(2) 将来の街の姿に合わせて店舗の業種構成を充実する

基礎的な業種の充実

地区内や周辺に住んでいる地域住民や学生等に対する日常的なサービスを充実することが必要です。食料品、特に生鮮3品の充実や学生等への飲食店あるいは集合住宅に住んでいる若いファミリー層の需要に応える衣料品店等です。

休日に訪れる周辺地域の住民へのサービス

消費者アンケート調査の結果によると、平日には登戸地区で買物をする人々も、休日には新百合ヶ丘や溝口に出かけていく傾向が見られます。これらの人々に対して休日にも登戸地区に足が向くようになって欲しいと思いますが、そのためには街の雰囲気がいい事と併せてしゃれたカフェテラス、ケーキ店、お花屋、ファンシーグッズ、本屋、CDショップなどの立地が考えられます。

広域からレクリエーション等で訪れてくる人々への対応

多摩川・生田緑地等へ訪れる人々がその行き帰りに出来るだけ街を散策し、街を楽しんで貰えるような店が期待されます。釣具店、スポーツ品店、レストラン、コーヒショップ、ギャラリーなどです。

また梨の産地であることを活かして、旬の時期に駅前で梨の大売出しを行い、鉄道通過客の途中下車を促すことも考えられます。

(3) 商業施設の立地特性を活かす

登戸地区の商店は場所によってそれぞれに立地条件が異なっていますが、立地の特性を活かした商店街を構成することが重要です。

この計画では、立地特性を図-19で示すように区分して捉えています。

* 拠点 登戸駅周辺の鉄道結節点であり、ツインコアの1つです。地区外からの人々の受入窓口となる、いわば玄関口です。

駅舎・自由通路の整備、区画整理、北部医療施設の新設などが予定されており、これらの整備で街の構造や環境条件が大幅に変化することになるので、同時に計画的に商業集積を創って行く事が重要です。

* 拠点 向ヶ丘遊園駅周辺の門前町駅であり、同じくツインコアの1つです。南北連絡路の整備、複々線化への対応が基本的な課題ですが、当面は門前町の駅前として訪れる人々への情報提供、修景美化と併せて適切な業種の店舗導入が望まれます。

* 軸線 2駅を直接結ぶ広幅員の道路沿いのルートで、延長が約1,000mあります。駅からも近く、道路条件もよいので、金融機関、IT関連企業などの業務施設の増加と1階部分を中心にサービス業を含めた店舗立地が予想されます。道路北側の小田急線の高架化の影響を受けることになります。

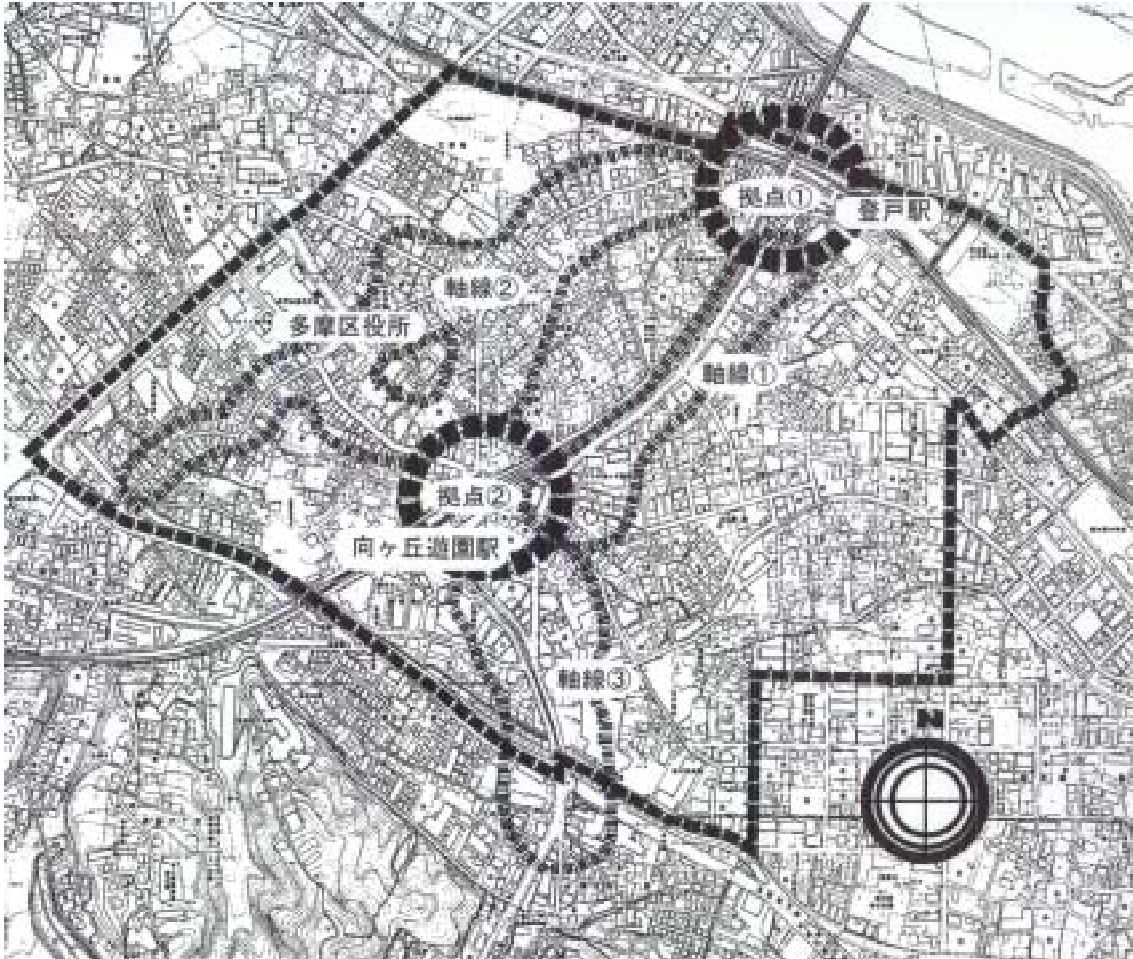
* 軸線 福祉パル・市民館・図書館・区役所等へのアクセスルートであり、また地区内住宅地を縫って通りながら2駅を結ぶと言う2つの性格を持った商店街になっています。

区画整理によって道路位置の変更、街区の変更が大幅に行われることとなりますので、商店街の性格、それに合わせた業種構成の充実、買物客の動線に沿う店舗の立地などについて計画的に対応することが必要となっ

ます。

- * 軸線 生田緑地・ばら苑等への入り口になる通りであるので、歩行者路の整備、道路景観の形成とともに門前町に適した業種の店舗等の導入が望まれます。

図-19 立地特性活用の方角



(4) 協調事業の推進

地区内には9の商店会があり、それぞれに商店会活動が展開されていますが、登戸地区全体として地区ぐるみのセールスを行うことも必要です。このため今後以下のような事業を共同して行うことが望まれます。

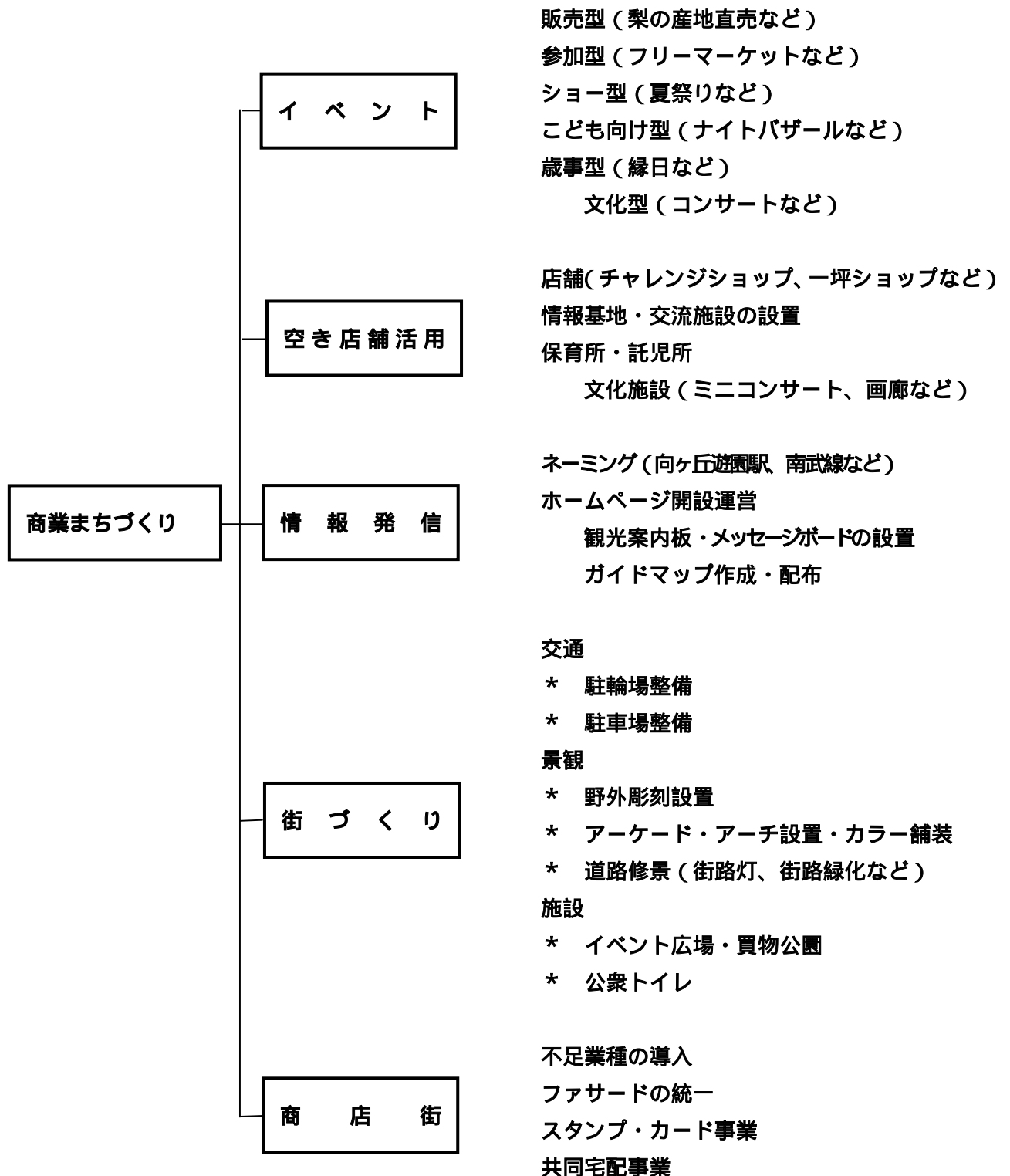
- * 共同イベントの実施
- * 地域情報の発信
- * スタンプ・カード事業、不足業種の店舗導入事業等の共同事業の実施

4 - 3 商業まちづくりの内容

商業まちづくりの内容の概略を取りまとめると図のようになります。

これらのうち短期・中期に取り組むべき商業まちづくりの内容は次章で詳細に提案されているとおりです。

図-20 商業まちづくりの内容



5 . 短期・中期に取り組むべき企画提案

5 - 1 短期・中期プロジェクトの方針

短期・中期に取り組むプロジェクトについては、長期的なまちづくりの方向を見定めながら、すぐに実行出来るもの、概ね5年以内に実行できるものの中から、次のような方針で取り組むことにします。

(1) 登戸地区全体の商業活性化を目指す

登戸地区には9の商店街があり、それぞれの商店街がイベントや情報発信を行っていますが、個別の商店街が行うこれらの活動が区内全ての商店街に効果を及ぼすように、また事業活動の協働化が行われるようになることを目指します。

(2) 商業者と市民との連携の強化

商業者と市民、NPO等との関わり合いを深め、市民によるさまざまなサポートを受けて、地域に密着した商店街になるようにします。地域在住の外国人にも考慮して情報発信に多様な言語を使うこと、自然豊かな地域性を考慮してマイバッグ推奨などの環境保全対策に取り組むこと、子育て支援、高齢者や異世代交流の場、市民グループの活動の拠点を市民グループやNPOと協力して設立・運営することなど市民の要望に応えながら商業活性化へつなぐ連携を強化します。

(3) 地域にある活性化資源の活用

既に実施されているイベントや情報発信等の事業活動はそれぞれに成果をあげていますが、これを登戸地区全域へ拡大し、市民からのサポートの強化によって一層活性化するようにします。また、周辺地区で行われているイベントとの連動や新規のイベント、空き店舗の活用など地域にある活性化資源の活用を図ります。

5 - 2 主要な短期・中期プロジェクト

委員会で出された57の企画提案（[資料編](3)のとおり）、第2回ワークショップで発表された企画提案をもとに、登戸地区で取り組むべき主要なプロジェクトとして以下のものを検討します。

(1) イベント

登戸東通り商店会では、既に「第8回 登戸ナイトバザール」を実施しており、特に子ども向けのゲーム等によって近隣の多くの人々、子供たちを呼び寄せています。今後は以下の点での改善が期待されます。

* ナイトバザールの区域を拡大し、周辺商店街との共同事業とする。

* 学生・市民の企画提案を加えて、内容を充実させる。

* 会場一帯の近くにある遊休地等を活用することによって、より楽しみやすいイベントにする。

また、様々なイベントが各地で開催される文化の日の前後に地域の各場所で連携して行われるイベント「生田緑地サミット」(NABE FESTIVAL)も提案されています。

こうしたイベントにより、商業者、居住者、来訪者などさまざまな人々が集まり、

話し合う場を作ることによって街が賑やかになり、活性化されることとなります。

(2) 情報発信

情報発信については、インターネットによる情報発信と印刷物による情報発信がありますが、登戸地区では、インターネットによるものとしては「登戸ネット」、印刷物によるものとしては、「多摩人」やナイトバザールの度に発行される「登戸宿かわら版」等があります。

今後は以下の点での改善が期待されます。

- * 市民や学生の参加による情報収集体制の整備
- * 体制整備に伴う情報発信量の増大
- * 登戸駅周辺を中心とする情報から登戸地区全域の情報の発信
- * 街を訪れる人々に情報を提供するインフォメーション・センターの設置

(3) チャレンジショップ

チャレンジ精神旺盛な人やグループによる特色ある店舗を展開し、商業地としての魅力を広げるためにチャレンジショップを導入します。登戸地区はレクリエーション等の入込み客が多く、さまざまな業種の立地可能性が高いものと思われれます。

チャレンジショップは空き店舗の活用も考えられます。

(4) 空き店舗活用

空き店舗の活用については、以下にあげるように多くの内容が考えられます。

うるおいや豊かさを創り、不足している業種を補うことで街の魅力を高めるような活用を図ることが望まれます。

- * チャレンジショップ
- * 生鮮3品等不足業種の店舗、書店や食堂等の学生向け店舗、レクリエーション客対象のしゃれたグッズや味と雰囲気の良いレストラン等の店舗
- * 地域に文化的な環境を創るようなコンサート、展示会等としての利用
- * 託児所、子育て支援、高齢者や異世代交流のための施設
- * 市民グループの活動拠点、街角カフェ（交流拠点）

(5) サポート体制の強化

事業者と居住者の交流を深め、商店活動を支援するサポート体制が出来ると商業活性化の上では大きな役割を果たすこととなります。このため委員会では市民の立場に立って商店街の活性化に貢献する「のぼりとゆうえん隊」の提案がされています。

このサポート体制では次のような役割を果たすことが期待されます。

- * 商店街のコンセプトづくり支援
- * 新規のイベント等の企画・実施
- * 既存のイベント内容の充実と支援
- * スポーツ、ゲーム等楽しく集まる集団づくりによる街の活性化
- * ユニフォーム、帽子、リボン、たすき等によるイメージづくり

5 - 3 ワークショップで発表された企画提案

ワークショップで発表された各部会の企画提案の内容は、以下のとおりです。

表 - 12 企画提案の発表内容

	発表内容
登戸駅周辺地区部会 (企画提案のイメージは P 33 ~ P 35 参照)	1. (仮称)「のぼりとゆうえん隊」 = 住民と商業者が一体となり街を盛りあげていく仕掛けとして、楽しく集まり、多面的な活動を行う商業サポーター軍団を結成する 2. 情報発信 = 印刷物による情報発信、インターネットによる情報発信による商業の活性化 3. レンタサイクル・サイクルポート事業 = 放置自転車の解消と自転車交通の活用促進による商業活動の活性化
向ヶ丘遊園駅周辺 北口地区部会 (企画提案のイメージは P 36 ~ P 38 参照)	[北口地区への提案] 1. リサイクル・ユースフェア = 新しく転入される方への利便性の向上と地域社会との関わりを高める 2. わくわくナイトバザール = 現在のナイトバザールを発展させ、学生と商店街の共同で実施していく 3. ウェルカム・ユースキャンペーン = 「若年層居住優遇制度」を立ち上げ、若者と地元住民のコミュニケーションをはかる [全地区共通提案] 1. 空き店舗の活用 / 街角カフェ 2. NTT 所有地の暫定利用 3. 情報発信
向ヶ丘遊園駅周辺 南口地区部会 (企画提案のイメージは P 39 ~ P 41 参照)	メインコンセプト : “ グランドガーデン = 生田緑地 ” の門前町としての商業活性化 1. インフォメーション = 駅前にインフォメーション・センターを設置する 2. 人材 = 様々な層の人々が集まり話し合う場づくり 3. 生田緑地サミット (NABE FESTIVAL) = 様々なイベントが各地で開催される文化の日の前後に地域の各場所が連携してイベント (NABE FESTIVAL) を開く

6 . 企画提案の実現に向けて

委員会での検討の中から、多くの優れた企画提案が数多く出されています。これらの企画提案は、実現されることによって始めて現実の商業まちづくりにとって意味があるものになります。企画提案を実現して行くためには以下のような事がが必要です。

6 - 1 “ のぼりとゆうえん隊 ” の設立

(1) 組織体制の整備

まずは企画提案を推進していく上で中核となる体制が必要ですが、そのために“ のぼりとゆうえん隊 ” を設立することが考えられます。

組織化を進めるための準備会を開催後、メンバー構成を確認し、世話人の選出を行って、世話人を中心として規約、運営委員会、事務局等具体的な体制作りが進められていくものと思われます。

(2) 事業活動の内容

当面“ のぼりとゆうえん隊 ” が手がける事業活動としては、以下のものが考えられます。

イベント等の企画

ナイトバザール、登戸ネット等既に推進主体が存在しているものは、提案を受けて内容の充実を図ります。また、新規に提案されている生田緑地サミットやチャレンジショップについては具体化にあたっての企画立案を行います。

イメージづくり

イベントの実施や情報発信、統一デザインの帽子、リボン、ユニフォームなどでサポート集団としてのイメージづくりを行います。

個別テーマ毎の実行委員会の設立

ナイトバザール、生田緑地サミットなど実施にあたっては、それぞれに実行委員会を設けて進めることが考えられます。このため、“ のぼりとゆうえん隊 ” の中にテーマ毎の実行委員会を設けることが考えられます。

6 - 2 商業者のネットワークの強化

地域商業の活性化は当然のことながら商業者が中心的な役割を果たすこととなります。このため商業者相互の連絡を密にして、地域の人々との交流を深めることが重要です。

(1) 登戸地区の 9 商店会の横のネットワークを強化する。

(2) 定期的に連絡会議を開催して、情報交換、イベントの共同実施、IT 化等を進める。

(3) 事務局機能を強化する。

6 - 3 行政施策の地区レベルでの総合性の確保

行政施策はそれぞれの部局の目的実現のために実施されていますが、これらが登戸

地区の地区レベルで総合化され、個々の施策がまちづくりに効果的に寄与できるよう次の点に対する配慮が求められます。

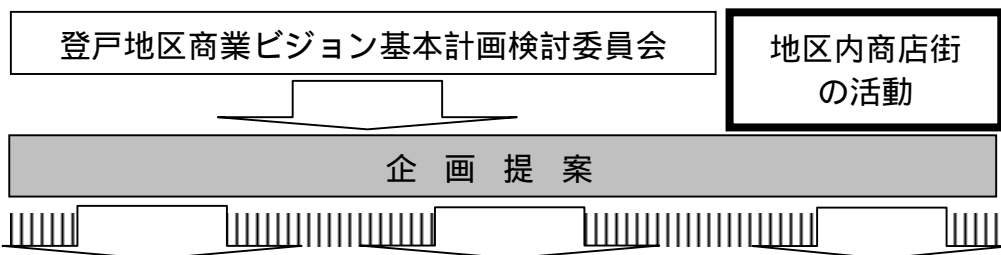
- (1) 登戸地区に関わる施策についての各部局間の横断的な調整が行われること
- (2) 個別施策が積み上がって効果的にまちづくりが進められるよう内容調整が行われること
- (3) 行政施策が地元の活動へのサポートの役割を果たせるようにすること

6 - 4 長期的・継続的なまちづくり体制の確立

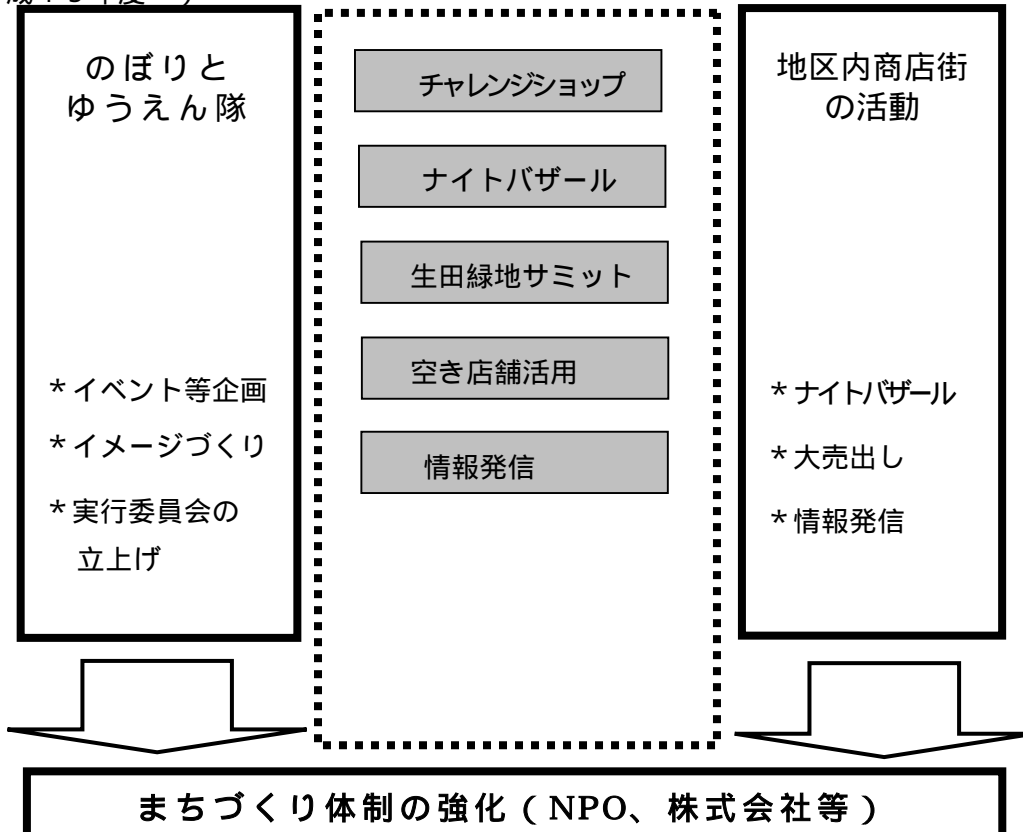
当面、地域商業の活性化のために“ のぼりとゆうえん隊 ”をスタートさせるとして、長期的・継続的に商業まちづくりを進めていくためには安定した組織体制が不可欠となってきます。このため、NPO法人、株式会社等何らかの形の法人化によって人材と資金を安定的に供給できる体制を確立することが長期的な課題となります。

図-21 企画提案の実現に向けて

(平成14年度)



(平成15年度～)



[資料編]

- (1) 構想策定の経緯
- (2) ハード系質問内容と回答
- (3) 5 7の企画提案
- (4) 委員会委員名簿



(1) 構想策定の経緯

委員会・ワークショップ開催経緯

会 議	日 時	内 容
第 1 回委員会	8月 8日 (木)	調査の主旨と進め方 調査対象地区の概要 都市整備の状況
第 2 回委員会	8月 29日 (木)	委員会メンバーの確定と部会編成 部会毎の街あるき 部会毎の意見交換 全体会でのレポート
第 3 回委員会	9月 19日 (木)	前回街あるきのとりのまとめ 登戸地区の将来イメージについて 第 1 回ワークショップの準備
第 1 回ワークショップ	9月 26日 (木)	調査主旨の説明 部会から前回検討結果の報告 部会別のワークショップ 各部会からの報告
第 4 回委員会	10月 24日 (木)	検討経過の整理確認(ワークショップ、 ビジョン策定フェーズ、商業者アンケート結果) ワークショップの結果をもとに部会毎の検討 これからの検討・企画提案の作成
第 5 回委員会	11月 14日 (木)	部会毎の企画提案の内容の検討
第 6 回委員会	12月 5日 (木)	消費者アンケート結果、商業ビジョンの骨格 部会毎の企画提案の内容の検討 部会案の発表
第 7 回委員会	1月 16日 (木)	部会毎の企画提案の絞込み 第 2 回ワークショップの準備 各部会の企画提案の発表
第 2 回ワークショップ	1月 30日 (木)	企画提案の発表 意見交換
第 8 回委員会	2月 13日 (木)	第 2 回ワークショップ結果の確認 計画書の内容検討 今後の活動継続について

(2) ハード系の質問内容と回答

委員会では、特にソフト事業について検討する方向で話し合ってきましたが、市が行なっているハード整備事業について把握する必要があるとのことで、行政の関連部局へ照会しました。

その内容は、次のとおりです。

No.	質問内容	回答
1	登戸駅前商店会は、狭い道路にバスが走り危険です。市営バスが曲がれない(曲がることで危険)箇所も見られます。小型バスの運行の可能性はありますか。	登戸駅前を運行いたします市バス矢ノ口線は、現在、中型バスで運行しておりますが、今後、乗車人員に応じた効率的な小型バス導入を含め、検討してまいりたいと考えています。
2(1)	区役所通り登栄会では、小田急バス・市営バスが1日400本(3分に1本)通過し、この他一般の大型車も通過します。危険で歩行者が安心して買物ができないことについてはどうお考えですか。	区画整理事業で区域内の都市計画道路、区画道路などを、順次整理することにより、歩行者の安全を確保します。(道路整備関連部局)
2(2)	区役所通り登栄会では、小田急バス・市営バスが1日400本(3分に1本)通過し、この他一般の大型車も通過します。危険で歩行者が安心して買物ができないことについてはどうお考えですか。	現在、市バスは、区役所通りを1日27回、中型車が一方運行を行っております。歩行者の皆様が不安を感じる事が無いよう、研修や出庫前の点呼の時間を利用して、乗務員へ安全運行の周知徹底をしてまいります。(交通関連部局)
3	商店街の中に、側溝から雨水が溢れる箇所が100mに見られます。排水の問題についてどうお考えですか。	区画整理事業の雨水排水計画に基づき順次整備を進めてまいります。
4	向ヶ丘遊園駅南口には、駐車場が整備されているが、北口には少ないように思われます。駐車場の現状と今後の増設は、どうなっていますか。(登戸駅周辺もどうなりますか)	現在、川崎市では条例に基づき、ある一定規模以上の建築物を新・増築される際に、原因者負担として建築主が必要な、また、附置義務等により、駐車場を設置することになっております。向ヶ丘遊園駅北口地区については、登戸区画整理事業区域内ということもあり、事業の進捗に伴い、建築物が増加すると思われるので、今後も条例等により適正な整備を指導してまいります。
5	区画整理により(遊園北口)駅前広場等が整備される場合、駐車場は整備されますか。	現在の駅前広場計画の中では自動車駐車場の整備計画はございません。
6	踏み切りがあるために、商店街が分断されていることが大きな問題であります。小田急に高架化や地下化するように、要求はしないのでしょうか。また、踏み切りはなくなるのですか。	南北の地域分断の解消を図るため、かねてから小田急電鉄(株)へ要望しておりますが、小田急電鉄(株)からは「現時点では将来計画が定まっておりません」と伺っております。また、踏切についてですが、まず、登戸駅方にございます登戸1号踏切については、複々線化および土地区画整理事業に併せて廃止され、現在の踏切位置の登戸駅寄りに6mの道路を整備する予定となっております。次に、生田駅方の向ヶ丘遊園1号踏切についてですが、向ヶ丘遊園駅 - 新百合ヶ丘駅間の複々線化計画が未定となっておりますので、踏切の形態も決まっておりません。

7	区画整理事業が現段階で総事業費610億円のうち、どの程度使われているのですか。	概ね230億円かかっています。
8	建築物等の移転が21%しか進んでいない段階で、すでに予算の半分を使っている、今後の事業は可能なのでしょうか。	当事業は、市の重点事業として、今後も推進してまいります。事業費についても、新たな補助制度を導入するなどして、確保してまいります。
9	歩行者と車の分離については、どうお考えでしょうか。(道路の幅員は狭く、歩道も無く、子供連れの母親にとって大変危険です)	登戸土地区画整理区域内では、都市計画道路について歩道を設置する計画をしております。その他の区画道路(生活道路)については、歩道を設置する計画はございません。
10	電線の地中化についてどうお考えですか。(まちの景観・イメージを損ねています)	登戸土地区画整理区域内では、都市計画道路について電線の地中化を計画しております。
11	登戸駅前の放置自転車が地域の問題となっています。駐輪場の実態と今後の増設の可能性はありますか。	登戸駅周辺の自転車等駐輪場については、市営5箇所・民営1箇所の計6箇所設置されており、収容台数は2,076台で2,078台の利用台数となっております。また、駅周辺の放置自転車等は519台となっております。今後の増設の計画につきましては、平成14年度中に200台規模の駐輪場設置を予定しております。
12	向ヶ丘遊園駅前の放置自転車が地域の問題となっています。駐輪場の実態と今後の増設の可能性はありますか。	向ヶ丘遊園駅周辺の自転車等駐輪場については、市営5箇所・民営5箇所の計10箇所設置されており、収容台数は3,900台で2,577台の利用台数となっております。また、駅周辺の放置自転車等は555台となっております。今後の増設の計画につきましては、現在のところはございません。
13	向ヶ丘遊園駅の南北連絡通路についてどうお考えでしょうか。	向ヶ丘遊園駅の南北通路については、本市の総合計画における位置付けがなされておきませんが、請願第85号「小田急線向ヶ丘遊園駅周辺の街づくりに関する請願」が主旨採択されたことを踏まえ、平成14年5月に、関係各課長で構成する庁内検討会を立ち上げ、南北自由通路を含む向ヶ丘遊園駅周辺のまちづくりについて検討を行っており、地元市民で構成する「街づくりを考える会」との意見交換を踏まえ、庁内検討会において中間とりまとめを行ない、一定の方向性を示しました。
14	向ヶ丘遊園駅の南北通路の確保はどうなっていますか?	また、平成15年度に駅周辺のまちづくりについて調査を実施するとともに、今後実施される総合計画の改訂作業の中で位置付けがされるよう関係機関と調整を進めたいと考えております。
15	遊園地が無くなった後の駅名はどうなりますか?	向ヶ丘遊園廃園後の駅名については、変更する考えは無いと、小田急電鉄(株)より伺っております。
16	世田谷通り・府中県道の拡張計画はどうなりますか?	世田谷通り(世田谷町田線)につきましては、多摩水道橋交差点から登戸郵便局北側交差点までの延長約820mを事業中であり、計画幅員20~27mで整備する予定です。また、府中県道(鹿島田菅線)につきましては、現在、多摩警察署交差点から土洲交差点までの延長約1,050mを事業中であり、計画幅員20mで整備する予定です。

(3) 57の企画提案

委員会での検討の途中では、各委員から沢山の意見や提案が出されており、これらは企画提案書として、シート化されました。以下は提案された57の企画提案の概要です。

企画提案書一覧

No	テーマ	ねらいと内容
01	地域に根ざした商店街	商店街が地域の情報発信基地になり、他（町内会、子供会、学校、NGO/NPO・・・）と連携、ネットワークを広げることによって“コミュニティ”として機能するまちづくりを目指す。
02	登戸駅から多摩川土手へのアプローチ路	多摩川河川敷と駅舎がもっとも近い位置にある。（南武線の他の駅と比べて） 多摩川河川敷の有効活用にプラスとなるように
03	川遊びが出来るまち、「登戸駅」	多摩川河川敷の有効活用。登戸駅付近しか出来ない事を有効活用しよう。魚釣り・釣具店の整備、ボート遊びの復活、レンタサイクル
04	南武線のイメージアップを	南武線の名称変更によるイメージアップを図る。 南武線：なんとなくダサイ 多摩川線：多摩川に沿う鉄道線である。
05	空き店舗対策、専門店の誘致を推進	登戸地区商店街の活性化。空き店舗及び遊休地の活用として登戸地区に不足する専門家を誘致、営業内容が良い店を誘致、まち中の休憩所とする。
06	学生が暮らし易いまちづくりを	小田急沿線には大学が多く、特に登戸遊園地区は、明大、専修大があり学生が多いまちである。学生が生活するために必要な施設 これらの欲求を満たせる「まち」を造る。
07	レンタサイクル、サイクルポートの設置	処分対象となる放置自転車の活用、観光スポット、鉄道駅、主要施設にサイクルポート設置、多摩川土手道のサイクリングロードの有効活用、放置自転車対策の一環。
08	登戸旧名所の案内	歴史のある登戸地区の旧名所の案内を大々的にPRする。パンフレットを作り3ヶ所の各ホームに置く。月に4回程度名所案内ボランティアにより案内してまちをPRする。
09	日曜青空テント村	毎週日曜に、登戸と提携した地方の町の名産産地物を市場として出店してもらおう。勿論、海の幸、山の幸、工芸の里、大道芸、とにかく各地から来てもらい、登戸の名物とする。
10	知識、知恵を付加価値として(知識社会への対応)	食品、物品の販売にあたり、賞品の知識などを附加説明することを通して消費者と、商店主のコミュニケーションを計り相互の信頼関係を築く。
11	駅前イベント広場の整備	駅前イベントを催し、乗り換え客を取り込む。梨、柿、栗、キュウリ等地元でとれた果物・野菜市、ナイトバザール、フリーマーケット、ミニコンサートの開催。
12	サイン、メッセージボードの整備と1日1品バーゲン	駅の乗り換え口（できたら駅構内にも）、商店街の入り口に大きなサインボードを設置して乗り換え客に商店街の地図と店のメッセージ、商店街のイベントを伝える。
13	街角に現代彫刻を	岡本太郎美術館にちなみ、現代彫刻でまち並みを演出する。まちに個性を出し散策路として集客する。商店街、街角、商店前に彫刻設置ブースを設け、公募して優秀作品は購入。
14	梨畑をイメージしたアーケードとカラー舗装	登戸駅前商店会は、駅と一体での整備が望まれる。駅構内に連続する屋根のついた、明るいまちにする。駅周辺エリアを区画整理が完了するまで屋内商店街として整備する。

15	自分を活かす(人づくり)	明るく楽しいまちづくりの第一歩はまず自分自身を明るく楽しい気分にするところから始める。そして楽しい気分を人に伝えよう！ “ Pay Forward ” (ペイ・フォワード)
16	既に在るものを活かす(人を活かす)	既存の商店街の潜在的な魅力を掘り起こす。登戸ネット、地域通貨アーチなど既に芽ばえたものを育て、活用する。店の紹介、人の紹介、店と住民を結ぶ媒介を育てる。
17	空き店舗を活かす(場所づくり)	潜在需要を引き出す。自分の店を育てる楽しみと苦しみをを知る。チャレンジしてみたい人とアイデアを公募する、賛同する出資者を募る、新たな事業を起こす。
18	登戸駅前再開発について	公共的要素の強い駅前の利用方法について、地権者のみの判断ではなく利用住民の意見も取り入れてほしい。
19	ネーミング 登戸+向ヶ丘遊園 ?	冴えないわがまち「登戸」を脱却するためまず名前を変える。新たなイメージの創造。遊園跡地を21世紀型環境共生モデル都市にする計画、アイデア公募、審査、公選、決定。
20	タマちゃんを飼う	自然に接する。野生に触れる。環境を考える。 多摩川にタマちゃん ばら苑にバラちゃん
21	「のぼりと隊」とか登戸サポート軍団がまちのあちこちに露出する！	人づくり、求心力づくり、市民の中へ増殖するしかけづくり。楽しく集まる集団づくり。これを社会に露出させる。イメージ訴求を図る。地域の活動を地域の利益に帰着する活動。
22	登戸発	他の商業主義との差別化のためには、登戸オリジナルなお店が必要。さまざまなコンテストを行い、住んでいる人、利用する人から登戸オリジナルのアイデアを募り商品化する。
23	駅前保育	小さい子供をもつ核家族の両親が安心して働くことができる環境、子育てできる環境をつくる。空き店舗を利用して夜遅くまで子供の面倒を見てもらうことができる保育施設をつくる。
24	みんなの集いの場	登戸をよりコミュニティのあるまちにするために地域住民などがさまざまな活動ができる場をつくる。空き店舗や高架下を利用。さまざまなイベントができるスペース、市民ギャラリー。
25	ナイトバザール	商店街で模擬店などを出し、子供も大人も一緒に遊べる、楽しいお祭り。地域住民に店を知ってもらう。商店と住民との交流を深める。模擬店、ゲームコーナー、演芸、ストリートライブ。
26	岡本太郎美術館をアピールしたまちづくり	まちの芸術性を高める。文化レベルをアップ。地域住民や観光客などに岡本太郎の作品とともに店を知ってもらう。まちの中に美術品のレプリカを置く、設置場所のマップをつくる。
27	大フリーマーケット	フリーマーケットに商店街も加わって安売り、処分売りなどをやる。大々的なフリーマーケットを開催(登戸・向ヶ丘遊園)。商店街の各店舗でも自由参加。
28	子育て支援	乳幼児を持つ母親へ場所を提供：買物がゆっくりできる、情報交換、人との交流。商店街に託児所をつくる。空き店舗などを利用、ボランティアで預かる人を頼む、母親同士も世話をする。
29	専門店の充実・強化・アピール	大規模な設備投資をしても効果が低い。個店のさらなる専門店化・・・多様化する消費者ニーズに対応、商品構成の絞込み充実化、専門店の強みを。その上でアピール・集客イベント。

30	総合的まちづくりモデルプラン	9月に発表された「行財政改革プラン」を市民と専門家の共同で実現させる。全体像や相互連関を評価した上で事業局間の横断的な“まちづくり”に意見を反映させる仕組みを作る。
31	空き店舗を利用したリサイクルステーションの解説	学生が住むまちなので、卒業後不要になる家電製品等のリサイクル販売に取組み、住民の利便を図るとともに、環境や健康に配慮した商店街を目指し住みよい地域づくりで客を集める。
32	高齢者社会に対応した、安心して歩ける商店街	駅と行政施設との間をビジネス客、地域住民が回遊、ウインドショッピングの出来る街路空間があり段差を少なくしたまち。建築協定による一定の制限を行い、調和のとれた街区を造る。
33	新入生・新社会人のためのリサイクルフェア	新しく引っ越される方への利便の向上と地域社会とのかわりを高める。卒業生（転出者）、新入生（転入者）の不要品と必要品の間を媒介する。
34	文化の香りのする活気あるまち	文化的資源を生かし落ち着いたまちと若者のエネルギーを吸収する地域の構築。ポケットパーク、オブジェの設置。若者がまちに滞留する業種(本、CD)、流行性の高いグッズの専門店街。
35	サンキューフェスタのぼりと会場 = 生田緑地噴水広場一帯	商店（会）への集客力アップのきっかけづくり 商店（会）間の協調・連携強化 民家園等文化施設とのタイアップによる商店（会）振興
36	遊園南口の活性化のために・・・ 「“グランドガーデン”生田緑地の門前町・文化のまち」のまちづくりのために	歴史のまちとしての宣伝：榊原城址、広福寺、天神社、安立寺 観光のまちとしての宣伝：生田緑地、岡本太郎美術館、ばら苑 「向ヶ丘遊園駅」：ハイキングコースの起点駅としての宣伝
37	中和ビルの空き室対策として	上記の観光グッズ（お土産、名産）の開発と出店 文化のまちにふさわしい貸しギャラリーを商店街などで運営する。地元の趣味の会、絵葉書、俳句、子育てなどと連携して。
38	向ヶ丘遊園パーク安堵ライド作戦	遊園駅からばら苑までの安全快適な交通アクセス確保で来街者の利便を図る。モノレール跡地を車道拡幅に当て、歩道脇に専用自転車道を作り電動スクーターを貸し出す。
39	生田緑地の門前町計画または生田緑のモノレールプラン	登戸駅、遊園駅から生田緑地までのアプローチを活性化し、魅力的な地域資源である「生田緑地」の門前町登戸を意図的にアピールする。モノレール跡の分離帯にばらの鉢植えを置く。
40	サテライトスタジオ的ミュージアムショップ	美術館や文化施設と商店街と市民をつなげる。商店街の空きスペースや空き店舗を利用。施設のインフォメーションセンターの機能も兼ね、まちと施設と市民を結びつける。
41	ミニバスでつなぐ	生田緑地の施設、専修大学を結びその付近一帯を活性化。民家園等の施設が横の繋がりが希薄である。ばら苑アクセスを生田緑地側からとし専修大学へのバスと1つにする。
42	美術館 + 地元作家 + 商店街	川崎市内に多くいる地元作家と美術館と商店街をつなげる。遊園駅から美術館へのアクセス路に美術館にまつわる物を置き（販売し）、地元作家に作品を置くスペースを提供する。
43	大学の休講情報の提供 +	遊園付近に多く住み、通ってくる明治大学、専修大学の学生の為に授業の休講情報などを遊園駅付近で提供し、その情報を発信する場所付近に時間をつぶせる場所をつくること。

44	ヨーロッパの片田舎を思わせるメルヘンのまち（まちそのものが芸術品）	生田緑地、専修大学・明治大学を背景に、自然と文化、今ある資源をもっと前面に出し有効利用する。連動して商店街づくりを押し進める。人々の集うやさしいまちづくりがしたい。
45	“ 振る舞いのまち・触れ合うまち ” 登戸 サマーフェスティバル “ 登戸 ”	お御輿を担ぐ ブラスバンド・吹奏楽の行進 郷土の踊り（阿波踊りなど）のコンテスト
46	“ 振る舞いのまち・触れ合うまち ” 登戸 オータム・オリエンテーリング “ 多摩 ”	紅葉の秋、多摩区の秘宝を探しながら多摩区の名所旧跡を巡り、文化・教養そして余暇を楽しむオリエンテーリング！（他県、他地区の参加を大歓迎）
47	（仮称）インフォメーション・ステーション	“ グランドガーデン＝生田緑地 ” にある地域資源（歴史・文化・緑）を活かし、連携を図るため、総合的に情報提供する場を設ける。散策マップ、イベント情報カレンダーを配布。
48	（仮称）ガーデン・メイト	“ グランドガーデン＝生田緑地 ” にある地域資源（歴史・文化・緑）を門前町となる商店街と共にたっぷり年中楽しめるように友の会的メンバーシップ（会員制度）を創設する。
49	（仮称）月ぎめイベント	“ グランドガーデン＝生田緑地 ” では四季折々自然の変化、歴史的な行事、施設イベントなど見所がめじろ押しである。これと連動したイベントを門前町商店街で毎月開催する。
50	（仮称）生田緑地サミット	“ グランドガーデン＝生田緑地 ” にある地域資源（歴史・文化・緑）を見つめ直し、その将来像のグランド・ビジョンを共有するため、ワークショップとシンポジウムを開催する。
51	レンタサイクルシステム及びサイクルポート事業	レンタサイクルシステム及びサイクルポート設置により、 放置自転車の解消を図る 地域の交通利便性の向上を図る 多摩川沿道のサイクリングロードの有効活用を図る
52	買物のために商店街に一時的に止められる自転車に対しての対応策（試案）	買物のために一時的に止められる自転車に対し、駐輪スペースを商店街の一角に設ける。当部会と商店街と協議し、駐輪スペース、誘導方法、PR活動方法の計画を立てる。
53	小田急線高架下の道路および空間利用計画	高架下を利用した河川敷へのアプローチ道路の整備。活性化に役立つ計画としていくこと。高架下に店舗などを配置、自転車置場の配置、河川敷へのアプローチ道路
54	「登戸・向ヶ丘遊園ガイドブック」の作成	ガイドブックの内容構成。ショップガイド（店舗分類）、店舗ガイドマップ、生活情報、ショップインデックス、イベントカレンダー
55	地域循環バス	公共交通手段の再整備。環境問題と高齢化社会への対応。地元商環境の活性化。アメリカ型車社会と郊外の大型店から脱却し新たな市民文化を築く。レジャー施設の活性化。
56	登戸ネット放送局	商店街発、地域の情報基地。商店街と地域住民の接点。地域商環境の活性化。既存の登戸ネットを利用した放送局を設置、インターネットTVも可能。双方向のやり取りが可能。
57	自分を活かす	まずは自分自身を明るく楽しい気分にする事から始めてみる。そして楽しい気分を廻りに人に伝染させる。まちや商店街を明るくする。マナーやモラルの向上、安全なまちづくり。

(4) 委員会委員名簿(順不同)

登戸地区商業ビジョン基本計画検討委員会委員リスト

	氏名	団体名・所属
委員長	関根 孝	専修大学商学部教授
副委員長	小林 正美	明治大学理工学部助教授
副委員長	小林 みどり	L Kデザイン研究所
副委員長	田中 友章	株式会社 フォルムス(明治大学講師)

(登戸駅周辺地区部会)

専門家委員	小林 みどり	(再掲)
商業者	吉澤 和久	登戸駅前商店会 会長
一般委員	杉下 祿郎	まちづくり推進協議会(多摩区民)
一般委員	村田 芳郎	まちづくり推進協議会(多摩区民)
一般委員	坪井 武信	まちづくり推進協議会(多摩区民)
一般委員	村上 達男	公募市民(登戸新町)
一般委員	横川 さとみ	公募市民(登戸)
一般委員	小笠原 紀将	公募市民(菅仙谷)
一般委員	七滝 安弘	公募市民(宿河原)
一般委員	石井 孝和	公募市民(寺尾台)
一般委員	余川 辰哉	公募市民(宮前区五所塚)
一般委員	渡邊 直子	公募市民(布田)
一般委員	関田 英恵	公募市民(宮前区五所塚)
一般委員	江藤 友美	公募市民(登戸)
一般委員	神谷 優治	明治大学学院生
行政委員	鈴木 洋昌	総合企画局政策部
行政委員	岡田 実	まちづくり局都市計画課
オブザーバー	安部 芳裕	市民
オブザーバー	近藤 敏	市民
オブザーバー	柄崎 理智	市民

(向ヶ丘遊園駅周辺北口地区部会)

専門家委員	小林 正美	(再掲)
商業者	江藤 文雄	登戸東通り商店会
商業者	細埜 隆巳	登戸東通り商店会
商業者	野村 日出夫	中店通り商店会 会長
商業者	横山 昭雄	登戸中央銀座商店会 会長
商業者	石原 金太郎	登戸中央銀座商店会
商業者	安陪 修司	区役所通り登栄会商店街振興組合 理事長
商業者	井田 安弘	区役所通り登栄会商店街振興組合
商業者	野村 晃	区役所通り登栄会商店街振興組合
商業者	吉沢 卯平	新川通り商店会 会長
一般委員	伊藤 一広	公募市民(登戸)
一般委員	中嶋 嘉孝	公募市民(宿河原)
一般委員	笠原 稔幸	公募市民(登戸)
一般委員	堀内 功太郎	明治大学学院生
行政委員	齋藤 繭	まちづくり局街なみデザイン課
行政委員	増田 守男	まちづくり局登戸区画整理事務所
オブザーバー	大向 聡	明治大学学生
オブザーバー	小野 健二	明治大学学生
オブザーバー	加藤 智里	明治大学学生

(向ヶ丘遊園駅周辺南口地区部会)

専門家委員	田中 友章	(再掲)
専門家委員	関根 孝	(再掲)
専門家委員	山田 長満	日本起業家協会 会長
商業関係団体	大井 泰紀	川崎商工会議所 多摩麻生支所長
商業者	玉井 勝重	多摩商店街連合会 会長
商業者	春名 康次	民家園通り商店会
商業者	横山 久寿	遊園南口商店会 会長
商業者	吉澤 実	遊園南口商店会
商業者	西 一徳	中和ビル商店会 会長
一般委員	井上 清	まちづくり推進協議会(多摩区民)
一般委員	園部 千代美	公募市民(中野島)
一般委員	高平 汎志	公募市民(宿河原)
一般委員	稲葉 敬二	公募市民(東三田)
一般委員	池谷 慶一	公募市民(東三田)
一般委員	山添 直樹	明治大学学院生
一般委員	趙 時英	専修大学学院生
一般委員	伊藤 由衣子	専修大学学生
一般委員	平田 克武	専修大学学生
一般委員	前澤 吉輝	専修大学学生
一般委員	美細津 梢	専修大学学生
行政委員	木村 幸敏	多摩区役所地域振興課
行政委員	森部 隆	経済局企画課
オブザーバー	松岡 嘉代子	市民
オブザーバー	小川 貴之	明治大学学生

事務局 川崎市経済局産業振興部商業観光課

調査協力 (株)二宮都市研究所